# 第６回　日　野　町　議　会　定　例　会　会　議　録　（第２日）

令和３年６月15日（火曜日）

## 議事日程

令和３年６月15日　午前10時開議

日程第１　一般質問

通告順番１　５番　松尾　信孝　議員

通告順番２　７番　安達　幸博　議員

通告順番３　４番　金川　守仁　議員

通告順番４　２番　梅林　敏彦　議員

通告順番５　８番　佐々木　求　議員

通告順番６　１番　中山　法貴　議員

## 本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

通告順番１　５番　松尾　信孝　議員

通告順番２　７番　安達　幸博　議員

通告順番３　４番　金川　守仁　議員

通告順番４　２番　梅林　敏彦　議員

通告順番５　８番　佐々木　求　議員

通告順番６　１番　中山　法貴　議員

## 出席議員（10名）

| | |
|---|---|
| １番　中　山　法　貴 | ２番　梅　林　敏　彦 |
| ３番　山　形　克　彦 | ４番　金　川　守　仁 |
| ５番　松　尾　信　孝 | ６番　中　原　信　男 |
| ７番　安　達　幸　博 | ８番　佐々木　　求 |
| ９番　竹　永　明　文 | 10番　小　谷　博　徳 |

欠席議員（なし）

---

欠　　員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

| | | | |
|---|---|---|---|
| 局長 | 伊　田　喜　浩 | 書記 | 景　山　政　之 |
| | | 書記 | 浦　部　俊　一 |

---

説明のため出席した者の職氏名

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 埒　田　淳　一 | 副町長 | 音　田　　守 |
| 総務課長 | 渡　部　裕　之 | 住民課長兼会計管理者 | 遠　藤　律　子 |
| 企画政策課長 | 荒　木　憲　男 | 健康福祉課長 | 住　田　秀　樹 |
| 産業振興課長 | 角　井　　学 | 建設水道課長 | 飛　田　朋　伸 |
| 教育課長 | 砂　流　誠　吾 | | |

---

午前１０時００分開議

**○議長（小谷　博徳君）**　おはようございます。ただいまの出席議員数は１０人であり、定足数に達していますので、これより令和３年第６回日野町議会定例会第２日目を開会いたします。

本日の定例会は、マスク着用や換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて進めます。

出席議員にはタブレット端末機の使用を、例規確認のため許可しておりますので、御了承ください。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

---

**日程第１　一般質問**

**○議長（小谷　博徳君）**　日程第１、一般質問を行います。

本定例会におきましては、６名の議員から一般質問の通告を受けております。

通告順に発言を許します。

最初に、５番、松尾信孝議員の一般質問を許します。

５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　おはようございます。本日は、２つのことについて質問をしたいと思います。簡単な質問であります。しかも、これといった正解があるとは思いません。でも、お答えの中に町長の町政への取組の政治姿勢がうかがわれるではないかと思います。そういう意味で質問させていただきたいと思うわけで。

最初の質問は、ＪＲ根雨駅の乗客用の駐車場の有料化についてであります。そして、この機会に根雨駅、伯備線の活用を通じて、日野町の活性化について議論をさせていただきたいと思います。その後、現在進められております新型コロナウイルスの予防接種について、住民サービスの最前線で働いている町職員の予防接種の優先度について町長の考えを聞きたいと思います。

まず、根雨駅を利用して伯備線で出かけようと思って、いつも列車利用時に止めている、駅に向かって下側の駐車場に車を乗り入れましたところ、５月に、この駐車場は特急利用者が対象で、１日３００円、しかもインターネットによる事前予約が必要であるとの看板が出ておりまして、これは今までとは違って全く寝耳に水のことでありまして、戸惑いました。そこで駅に聞いてみますと、そこはもう既に関連会社の管理に移って、根雨駅での窓口では受け付けていないと、金銭の、料金の授受もやってないと。これは日野町の実情に合わせると、いろいろな点で不便になり、ひいては根雨駅、伯備線の利用促進という町長の公約にも逆行するものではないかと思い、ここで町長のお考えを聞きたいと思ったわけであります。そこで、今回の駐車場の利用についての改変をどのように受け止めていらっしゃるのか、そこのところについて聞きます。

２番目は、そもそも根雨駅の将来についてどうあるべきなのかということをお考えなのかということをお聞きします。

そして、３番目に町長の公約でもありました日野町、伯備線の利用促進をどう実現していくか、町長の任期もあと半年と少し、公約を掲げて町長になられた以上、その成果を町民にきちんと説明する義務があると考えます。

次に、新型コロナワクチンの町職員への接種についてお伺いします。繰り返しになりますが、町職員は住民サービスの最前線で働いております。当然、不特定多数と接する機会も多く、感染のリスクは高いです。さらに、万一職場で感染者が出るとしますと、役場機能が麻痺し、町民へのサービスの提供が滞ることになります。そのような懸念から、以下のことについてお伺いいたします。

１、町長を含めて現時点で役場職員の、町職員のワクチン接種はどれぐらい進んでおりますか。

２、万一、職員から感染者が出た場合の対応策はできておりますか。

３番目、町職員はサービスの受益者である町民にとっては、なくてはならない存在だと思いますが、優先的に接種をさせるというお考えはありませんか。関係機関との調整は必要なのでしょうか。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　おはようございます。５番、松尾議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、根雨駅駐車場の有料化をどのように受け止めているのかとのお尋ねでございます。まず、根雨駅駐車場有料化についてでございますけれども、根雨駅利用客用駐車場は特急列車の利用者のみが利用できる根雨駅下側奥の駐車場で、本年３月末に有料化されました。これまで特急列車の乗車券はインターネットで購入できたのに対して、駐車場の予約は事前に根雨駅窓口に直接行かないと予約ができませんでした。そこで、ＪＲ西日本さんが利用者の利便性を向上させるため駐車場の管理をグループ会社に移し、乗車券の購入同様に駐車場の予約もインターネットでできるようにされました。予約システムの導入に当たり管理コストがかかるため、駐車料金が有料になったということでございます。駐車場利用は１日３００円と、有料化により利用者には御負担となりましたが、このたびの変更は特急列車、根雨駅の利用者への利便性、サービス向上を目指されたものと考えます。

次に、根雨駅の将来についてのお尋ねでございます。根雨駅は本町の玄関口として、今後も根雨駅を長く存続させていかなくてはいけないと考えております。そこで重要なのは、やはり利用者数を増やすことでございます。町としましては、根雨駅利用者確保のため、定期的に利用される通学者の増に力を入れたいと思います。特に高校生の通学利用につきましては、日野高校魅力向上推進協議会の取組により生徒数の増加、高校存続によりＪＲ根雨駅利用者の確保に努めております。日野高校生通学者は根雨駅利用の多くを占めており、今後も利用者の確保に努め、根雨駅を存続していけるようしていきたいと考えます。また、来年は根雨駅、黒坂駅ともに開業１００周年を迎えます。そこで、今年の夏休み期間に金持テラスひので鉄道に関するプレイベントを実施するよう計画しております。多くの方に来ていただいて本町を知っていただき、交流人口、関係人口の増につなげていきたいと考えております。

次に、私の公約である特急の停車する根雨駅の利用促進についてでございます。根雨駅の存続、特急やくもの停車駅として維持していくことは、利用者増を図るしかございません。しかし、コロナ禍ということもあり、出張等も激減する中、特急やくも号を利用し外出を促すことに難しさを感じる、そういったことも正直なところでございます。町では特急列車の利用者増を図るべく、令和２年６月から公設塾まなびや縁側に通う高校生の特急料金を補助することといたしました。

令和２年度には、まなびや縁側に通う日野高校の生徒２名に本補助金を活用していただき、年間で１７１回乗車と、特急列車の利用促進に貢献していただいたところでございます。また、根雨駅利用促進協議会では、新型コロナウイルスの影響による特急やくもの減便計画により、上り岡山行きは根雨駅に停車しない予定であるとの情報があった際に、根雨駅停車の要望を強くさせていただきました。ＪＲにはしっかりと伝わり、御理解いただき、臨時停車措置を取っていただきましたので、特急利用者の利便性を確保することができております。今後もいろんな方面で利用促進、防災無線であるとか、チャンネルひのであるとか、役場前電光掲示板等の広報素材を活用し、列車運行情報の広報にも努めてまいりたいと思います。

次に、町職員の新型コロナ感染予防対策に関してでございます。役場職員の予防接種の現状はどうかとのお尋ねでございます。１回目のワクチンを接種した職員は、昨日時点で町長以下２８名おります。私は６５歳以上の枠で５月２９日に２回目を接種いたしました。２８名のうち２７名は６４歳以下の職員でございます。本町の６４歳以下の町内在住職員につきましては、該当の年齢に応じたスケジュールでの接種を基本としておりますけれども、接種当日にキャンセルが発生し、６５歳以上の住民で接種のお願いができる方がいない場合、ワクチンを廃棄することとならないよう、職員に接種をしております。職員の優先順位としましては、保育園での感染防止を優先し保育士、ワクチン接種事業に中心的に携わる保健師、健康福祉課の職員から接種を進めております。また、日野町立学校の教員に対しても、この枠の中で優先的に接種することといたしました。

次に、万一職員に感染があった場合、その対策についてのお尋ねでございます。まず、感染した職員が勤務している建物は、使用を一時禁止する措置を取ることとなります。その後、保健所の指導に従い、建物内の消毒、濃厚接触者の判定、積極的なＰＣＲ検査の実施を進め、可能な限り早急な再開を図ります。感染した職員はもとより、感染者との接触状況により、長い職員で２週間程度、職場での勤務ができなくなることから、職員が自宅で業務用パソコンを用いて仕事ができるよう準備しております。業務の継続につきましては、業務継続計画、ＢＣＰに基づき、優先する業務を選別し、業務を行うこととなります。優先順位の高い業務を中心に進めることにより、できる限り住民の皆様の生活に不便が生じないよう、役場機能を継続いたします。

なお、町では職員の感染リスクを減らすため、出勤時の検温による体調管理、マスクの着用、手指アルコール消毒、または石けんによる洗浄、１日３回カウンターなど多くの人が手に触れる場所へのアルコール消毒、定期的な換気、執務場所が密にならないよう、職員同士が濃厚接触者にならないよう執務場所の分散化、さらにはオンライン会議の活用、県外出張の原則禁止など、

感染予防に努めているところでございます。

最後に、職員の優先的接種について、関係機関への働きかけはどうかとのお尋ねでございます。先ほど述べましたように、当日キャンセルが出た場合にワクチンを廃棄することがないよう、職員への接種を進めております。職員の接種が全て早く完了してしまうと、当日キャンセルが発生した場合、余ったワクチンへの対応が困難となり、廃棄せざるを得ないことも予想されることから、職員を優先して接種するのではなく、余剰ワクチンを活用しながら職員への接種を進めたいと考えております。冒頭申し上げましたように、この方法をもってもある程度の優先的接種が進んでおります。なお、８月中には予定している２回目の接種も完了する見込みでございます。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　それでは、追加で質問をさせていただきます。

最初の御説明、今回の改変をどう評価してるかっていうこと、驚きましたですね。有料化になって、なおかつインターネットで事前にしか予約しなければ使えないということについて、これは特急列車、根雨駅の利用者への利便性、サービスの向上になると思うというふうに、と伝えられているというふうに言い換えられましたけど、これって本当にそういうことなのかなと思うんですけどね。それは見解の相違という以上に、一体これ、つまりＪＲの説明の宣伝のコピペをおっしゃってるように聞こえたんですよね。一体誰の立場に立って行政っていうものをやられてるかっていうことに疑問に思うわけですけど。ですから、せめて、実は本町にとっては不便になるけど、ＪＲさんがお決めになったことだから致し方がないぐらいに言われるほうが、まだ実は議論の発展の余地があったと思うんですけど。その上でちょっとまずお聞きしたいんですけど、根雨駅の現在の利用者数については、何人ぐらいいるというふうに把握されていらっしゃいますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　御質問、具体のものの部分については担当課長から答えさせますけど、利用っていうのは特急利用のことでしょうか、それとも根雨駅の利用でしょうか、それとも……。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　全体で、できればどっちもあればいいんですけど、根雨駅……。

**○町長（垰田　淳一君）**　駐車場の利用なんでしょうか。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　はい、全体で結構です。

**○町長（垰田　淳一君）**　全体、はい。それと、私、初問のほうで利便性っていうような、コピペじゃないかっていうようなお話でしたけども、確かにその部分もございます。ただ、ＪＲさんの、どういうんですか、こういうふうにしますよっていうペーパーの中に、今までは駐車場を利用す

るときには前日までに駅に来て予約しないといけなかった、駅に来て、前日までに。それが、今回のこういう新たなサービスでは、特急利用の、駐車場利用の３０分前までに予約をすれば使えるっていうような、非常にこれは往復の利便のショートカットっていうか、そういうのにも大きく役立つんだと思います。前日までに来て駐車場を予約しとかないといけないのと、利用当日に駐車場が確保できる、これはやっぱりサービスの向上ではないかなと私は思います。具体の案件については、企画政策課長から答えさせます。

**○議長（小谷　博徳君）**　荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　それでは、根雨駅の利用者数、乗降者数をお答えいたします。令和元年度が１日３７０名、それから令和２年度３１２名という数字になっております。

**○議長（小谷　博徳君）**　松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　このうち、日野高生の利用者数は何人ぐらいいるかっていう数字は分かりますでしょうか、教育課長を含めて。

**○議長（小谷　博徳君）**　荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　私がお答えいたします。令和元年度３７０名のうち日野高校の生徒さん１９４名、それから令和２年度ですね、３１２名のうち１７２名が日野高校の生徒さん、乗降です、上り下りということで、どちらも半数以上は日野高校の生徒さんが占めてるということになっております。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　議論のために関連して聞きますけど、今トイレ前に駐車場スペースが四、五台ありますね。ここは誰が管理してるんですか、町ですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　あそこの土地はＪＲさんの土地になりますので、ＪＲさんが管理されていると認識しております。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　あまり今日の議論と関係ないかもしれませんけど、あそこは長期間止めてらっしゃる、明らかに利用者だと思われる方が止めてらっしゃるという現実もあるんですよね。そこのところ、じゃあ少なくても町はそこのところについては管理はしてないというふうに取りあえず理解をします、今日のところは。

今、この問題についてね、やっぱり気になるのは町長の姿勢だと思うんですけどね。つまりＪＲがこういうふうに決めてきたんだということについて、やっぱり１回ぐっとこう受け止めて、

それが本当に町にとってどういうことなのかということについて、押し返すところは押し返すなり、変えてもらうとこは変えてもらう、そういうような姿勢が、私は住民の立場に立ったスタンスが必要じゃないかと思う。これは、実は合銀のＡＴＭが駅前からなくなったときにも、あのときの御答弁も、合銀さんが決められることだから、町としてはこれ以上は何も言えないというようなことで言われたんですけどね、やはりそれは本当に住民の立場、町民の立場に立った政治の在り方とはちょっと違うような気がします。

時間があれなんで、根雨駅の将来をどう考えてるか、これからどういうふうにしたらいいかということについてのほうに移ります。もちろん、おっしゃっているように利用者数を増やすことが一番大事なことだと、これは本当にそのとおりだと思いますね。改めて本当に、もちろん利用者数が増えるっていうことはそうなんですけど、根雨駅っていうのは日野町にとってどういう価値があるのか、根雨駅が今特急が止まって、これだけ乗降客があるということは、日野町にとってどういう価値があるというふうに評価されていらっしゃるんでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　本問のほうでも申しましたけども、日野町の玄関口、そういう位置づけ、要は日野町に来ていただいた方がまず、どういうんですか、乗降される、それから日野町内に出かけていかれる、そういった大きな玄関口っていうことで私は認識しております。御質問とはちょっと違うんでしょうけども、先ほど３７０とか３１２、うち１７２とか１９４、高校生っていうのんで、今日の新聞にもちょっと若桜鉄道さんが出てました。コロナ禍で随分大変な中で、やはり主な利用者数、そして金額もですけれども、通勤通学、特に通学客のウエートが非常に重きをなしてて、その次通勤、それから一般観光客、そういったような構成になっております。この根雨駅についてもそういうような、今、鉄道事業って恐らくそうかもしれません、こういうローカル線は。そういった面でやはり高校生たちに使っていただいて、高校生が乗降する、その光景が、どういうんですか、日野町にとって明るい映像になるように、そういうふうに期待しております。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　高校生の重要さっていうのは同感です。ちょっと余談になってしまいますけど、木次線のおろち号が廃止になるとかっていうことで、木次線沿線は木次線がなくなるのではないかということで若干危惧しているとこ。だけど聞く人に聞きますと、実はあそこには高校が、沿線に高校が３校あると。３校も高校がある以上は、なかなか廃止していけないんじゃないかというようなことを言う方もいらっしゃいました。それから、そういう意味でいいま

すと、伯備線根雨駅ってやっぱり日野高っていう高校があるっていうことは、非常に大事なポイントだと思います。それから、駅員が駐在するっていうことも、これはだから、実は駅員が駐在してるっていうことも日野町にとっては、根雨駅にとっては非常に大事な価値なんですよね。そういう意味では高校があるっていうことも駅員が駐在するという条件と結びついてくるというふうにも聞いております。

そこでもう一つ、伯備線の利用促進協議会っていうのがありますね。今のお答えの中でも述べられていらっしゃいますが、これ昨年、どういう活動をやったんでしょうか、その実績が分かりましたら。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　本問のほうでも述べさせていただきましたけども、コロナ禍の中で、どういうんですか、特急やくも号の運行について減便であったり止まる駅を変えていくとか、そういうようなことがあったときに、この根雨駅利用促進協議会のほうでそういう情報をキャッチしまして、動きをさせていただきました。それはどういう動きだったかっていうのは、先ほど本問のほうでお答えしたとおりでございますけども、それ以外とか詳細につきましては、企画政策課長のほうから答えさせたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　根雨駅利用促進協議会でございます。令和３年２月１日に協議会の会議のほうを行わさせていただいておりまして、そのとき先ほど申しましたやくもの減便のお話出まして、そのときに強く要望させていただいて、支社のほうに通していただいたというのがございますし、あとはなかなか今観光とか難しい状況の中でございますが、新庄村さん、それから江府町さん、それから蒜山さんとか、そういうとこもお越しいただいて今後に向けてＪＲのほうをＰＲさせていただいて利用、特にやくも号の利用、それについて話合いをさせていただいたところでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　近隣の町村のことが出ました。やはり根雨駅の価値の一つとして近隣町村で使ってもらえるという、これも特急が止まるということの一つの価値だと思います。そこでやっぱりね、有料化っていうのはね、かなりここのところを促進する阻害要因になるんじゃないかと私は思っております。

最後に、町長の公約をどうやって実現していくかという、この問題に、時間の問題ありますんで移りますが、何かここで今の御答弁聞いてますと、コロナがあれなんで自分の公約がなかなか

進まなかった。じゃあ、コロナが終息したら本当にこの利用、伯備線が、町長の公約が実現するかっていったら、多分そうじゃないと思います。それは当然そうなんですよ。だからこそ、だからこそですね、やはり、何ていいますか、ここは自分の公約を実現するために政策としてこうやるんだという態度が、態度っていいますか、動きが必要なんですよね。

そこで一つの提言として、私もこのことをあれするに当たっていろいろ考えてみたわけなんですけどね、町長いろいろ最初の施政方針のときからおっしゃってるわけですけどね、町の資源を生かした町の活性化ということは繰り返し繰り返しおっしゃってるわけですよね。そこで、やっぱり日野町どういう資源を持ってるのかという面から、もう１回この問題についても今、つまり根雨駅の活性化ということについてもアプローチしていったらどうかと私は思ったわけなんです。一番のあれは観光資源、観光資源を持ってるんですよ。ともう一つが、その資源っていいますと日野高という資源も持ってるわけです。この２つをやっぱり戦略的にちゃんと生かしていくというアプローチが必要だと思う。特に観光資源の中でオシドリとか金持神社とか古い町並み、それから文化財、そういうものを持ってるわけですから、それぞれが課題を抱えているわけなんですよね。例えば、オシドリでいえば、今お世話していらっしゃる方が高齢化していると。それから施設が河川敷の使用許可の問題で、なかなか今のままでは続かないと。金持神社に関していえば、駅からのアクセスが非常によくないということですね。それから古い町並みの活用に関していえば、旧合銀、近藤家の建物があるわけですけど、この間、全く手がついてないというような状況で、そういう、ですから、根雨駅の利用促進という面からも、この観光資源というか資源をやっぱり生かしたアプローチっていうのが必要だと思うんですね。

もう一つ大きい柱としては、利便性の確保、つまり駅使うのは便利だ。これ実は生山駅ってすごく整ってんですよ。無料の広い駐車場があって、駅のところには郵便局があって、ＡＴＭがあって、それから売店もある、食べるところもある。これね、そういう意味でいけば根雨駅、生山駅に対して負けてんですよ、完全に。ですから、そういう意味ではせめてパーク・アンド・ライドっていうか、ここを無料化にしてやる必要があるんじゃないかということを思いますね。そのことは、実は今いろいろ話題になっている$CO_2$の排出減、つまり列車移動利用の促進による$CO_2$の削減と、そういう効果も結局出てくるわけで、ここはやっぱり$CO_2$削減の、排出削減に対する町の姿勢っていうものを出すという意味で、ここのところももう一度お考えになるほうがいいんじゃないか。

最後に、やっぱり需要増っていうのはね、需要の創出なんですよね、需要の創出です。それは、例えばこれは本当に思いつきだと思われるかもしれないですけどね、お年寄り向けの米子のＪＲ

を使った買物ツアーとか、そういうのを企画するなりして、定期的にそういう需要を創出すると。今言いましたことはね、各課でみんな関連してるんですよね。観光資源だって産業振興課、それから日野高の魅力向上は教育課、利便性の確保っていうのは企画でしょうね。それからお年寄りの観光、米子のツアーなんていうのは健康福祉課とか社協だとかボランティアの関係、そういう各課のやっぱり持ってる役割っていうものを総合していけば、ここのとこについてももう少しまとまった政策ができるんじゃないかというふうに、いう提案でございます。

ちょっと駆け足になりましたけど、町職員の予防接種の現状ということについて、そっちのほうに行かせていただきます。今、御説明いただきましたけど、もう一度、今現在、町内でどれぐらいの接種が進んでおりますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　本問のほうでは町職員のっていうことでございましたけども、今町内でどのぐらい、今日もローカル紙に出てた思いますけど、１回目の接種が日野町８５か８６％、それから２回目が何％でしたか、ちょっと詳細ですので、担当課長のほう、大丈夫かな、分かりますか、答えさせます。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。現在、数字が分かっておりますのが、高齢者向け接種でございます。６５歳以上の方でございますが、１回目が１，５３２人接種対象者がおられまして、１，３８０名、昨日時点ですが、接種を終えられております。２回目が約８００名の方が接種を終えられております。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　それは一応あれですか、スケジュールどおりですか、それとも若干早いんでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。当初スケジュールどおりで進行しております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　町職員への接種のときに、キャンセルが出たんでそれへの対応ということで、それは無駄な廃棄をなくすために当然のことだと、当然といいますか、一つの方策だと思っておりますが、その結果、非常に多くの町職員が、確かに土曜日曜、日野病院に行って、いろいろ接種者のお世話されてます。当然のことといいますか、それは本当に御苦労さまだと思

うんですが、つまり最初、国からのあれは年齢に応じて６５歳以上、基礎疾患のある人と。今は全体の流れは職域とか職種によって、やはり接種していくという部分も入ってきて、ここはやっぱり、何ていいますか、政策が入るところなんですよね。私質問のところで言いましたように、町職員っていうのは、やっぱり非常に重要な役割を担ってるんだというところで、これはやっぱり優先的に接種をして、住民サービスが滞らないようにするべきだと思うんですけど、その辺については町長、いかがお考えですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　重ねて職員の優先接種っていうことでございますけれども、これも先ほど本問でお答えいたしましたけども、そこまでしなくてもっていうか、キャンセル対応とか、そういうようなことでどんどん、キャンセルが少なければ、また対応もあるかもしれませんけれども、今のところほぼ優先接種と同じような効果が出てるっていうことでございます。それと、やっぱり議員さんもちょっと想像していただきたいんですけれども、そういう優先接種、職員とも議論しましたけども、物すごい大きな都市で、接種にあと半年かかるとか、もう１２月ぐらいまでかかってしまうときには、確かに優先接種っていうプライオリティー、いろいろ考えていかないといけないなとは思います。うちのような町、あと５回、８月のお盆までにはほぼ対象の方の接種が終わるっていう中では、そういうタイムスケジュールっていうか、スパンの中での優先接種の意味っていうのがどのくらいあるのかっていうのもいろいろ考えた上で、今のキャンセル対応、そういったことで十分対応できるんじゃないかなっていうことで考えております。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　キャンセル対応っていうことが出ましたんでちょっとお伺いしますけど、キャンセル対応のシステムっていうのはできてるんでしょうか。全庁の皆さんに知らしめているわけでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　担当課長のほうから、具体ですので答えさせます。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。高齢者の皆さんの接種につきましては、あと２日間を残すところになりました。７月１０日から６４歳以下の接種に入ります。今現在、募集中なんですが、６４歳以下の町民さんにキャンセル待ちの公募をいたしております。今、現時点で１２名の方が登録をいただいております。そのほか、保育所の、今５名の方が接種を終わってるんですが、それ以外の会計年度任用職員さん、たくさんおられます。そういった方々にも早

く接種を終わらせたいということで、キャンセルの登録をしていただいております。あと、町長の回答のほうにもありましたが、日野町内の町立学校の教職員の方々にもキャンセル登録をしていただきまして、キャンセルの対応につきましては、そういった方々を中心に仕組みを構築してまいっております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　キャンセルに関しての対応はきちんとできてるということで、でないとキャンセルが当日出たからって、確かに日野病院でいろいろお手伝いしてくださってる町職員の方、おいおまえ、それじゃあ先やったるとか、まさかそういうことじゃないとは思ったんですけど、でないとそこのとこは透明性を欠くことになりますので、きちんとそういう意味ではシステムができてるっていうことを聞きましてあれです。

今、さっきのお答えの中でＢＣＰ、ビジネス・コンティニュイティー・プランっていうんですか、業務継続計画、これはどの辺まで今このプランっていうのはできているんでしょうか。もう完全にできてますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　このＢＣＰにつきましては、各課のほうで業務の優先順位をつけてるということでございます。計画として、全ての災害でありますとかに応じたところでの計画というようなつくり方にはなっておりませんで、業務の中で優先順位をつけておるということでございます。そういった中で対応できる職員数、仮にこのコロナということで考えますと、そのときにどれぐらいの業務に携わることができなくなった職員が出てきたかということに応じて、優先順位の高いものから業務をすると、業務をするといいますか、必ずしなければいけないものっていうものがあるわけですから、そういったものには必ず業務を執行すると。優先順位の低いものについては期間を置かせていただくといったような取組になるということでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　ということは、ここで答弁で言われたようなきちんとした確立したプランということで出来上がってるわけではないということと、ですね、それが一つと、じゃあ総務課長は全体を統括する立場として、各課のＢＣＰについてはきちんとチェックされてますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　全てを把握してるかと言われますと、そうではないかなというふうには思います。ただ、どうしても日々の業務の中で必ず停止することができないというような業

務ございます。命に関わることでありましたり、あるいは戸籍の、特に死亡に関するものですね、これは火葬許可でありますとか、そういった業務がございますので、こういった業務は停止することができない、そういったような部分では理解をしてるということでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　最後に、この緊急時のあれですけど、対応で自宅でパソコンができるような体制について準備してると。これは議会でも指摘しましたけど、セキュリティーの問題がどうなのかということ、これについては実際問題、今準備だというふうなお答えだったわけですけど、どれぐらいのタイムスパンで、どれぐらいの時間でこれをきちんとしていくつもりであるのか教えてください。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　ただいまの御質問は今補正予算で予算計上させていただいてるもののスケジュールということかと思います。今回、提案させていただいておりますのは、公会計システムと、それから一般文書での決裁ということでございまして、恐らく公会計につきましては年内ぐらいにはある程度のものができるかな、大体のものができるかなというふうに思っております。一般文書のほうにつきましては、かなり規則構築といったところからもありますので、もう少し年を越して年度末近くなってしまうかもしれませんけれども、そういったような少し時間のかかるような作業になるかなというふうに思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　聞いていますと、私の質問は万一に感染があった場合にちゃんと対応ができるのかということについてなんですけど、どうも何かそこのところについては年末だとかなんとか、つまりすぐには、クラスターが発生して、それぞれ自宅で仕事しなさいということについては、セキュリティーとかのいろんなソフトの問題でできないということですね。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　ただいま申し上げましたのは、決裁に係る部分ということ、それから電子的な文書の管理、体系立った管理という部分で申し上げました。現状で対応できる部分といたしましては、在宅業務、可能なようにしておりますし、決裁ということを除きますと現状でできる部分もございます。それから、コロナの対応でいいますのは在宅勤務というだけではなくて、現在行っておりますけれども、執務室を分けた分散業務、こういったこともございます。いずれにしましても職員として大事なのは、職員の感染をゼロにするということは恐らく不可能だと思いますので、感染者をどれだけ抑制できるのか、クラスターを役場の中で発生させない、こ

こに全力を集中する以外にないのかなということで今は考えているところでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員。

**○議員（５番　松尾　信孝君）**　それこそが私は優先的に予防接種をすることだと思うんですけどね。最後になりました。どうもずっと今日の答弁も聞いてますと、どうもほとんど成り行きに任せたような答弁でしかなかったように思うんですよね。つまり、もうちょっと積極的に政策っていうものを町はどうするんだ、埒田淳一はこうやってやるんだというようなものをもっともっと前に出したいろんな政策っていうものを出してほしかった。これは実はこの３年以上ずっと続いているような気がするんですよね。それは私が１人感じていることなのかもしれません。あと、ただ、町民の方が今回こういう答弁を聞いたりとか、いろいろされてどういうふうに評価されてるかにもよるんですけど、この後、同僚議員から町民アンケートというのも出るというふうに聞いております。どんなお答えが出るか分かりませんけど、私はそのアンケートの結果っていうものを非常に楽しみにしているわけですよ。やっぱり町長の公約をどうやって実現していくかという、この真摯な姿勢というのを町民はちゃんと見てるということを肝に銘じて政策を実行していただきたいというふうに思いまして、私の質問を終わらせていただきます。

**○議長（小谷　博徳君）**　５番、松尾信孝議員の一般質問が終わりました。

---

**○議長（小谷　博徳君）**　５分ほど休憩を入れたいと思います。休憩。開始はこの時計で５３分。

**午前１０時５０分休憩**

---

**午前１０時５４分再開**

**○議長（小谷　博徳君）**　再開いたします。

次に、７番、安達幸博議員の一般質問を許します。

７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　それでは、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０について問うてみたいと思います。第２次きらり日野町創生戦略に、国の施策の一つのＳＤＧｓ、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０など新しい時代の流れを力にするとあります。ＳＤＧｓについては、創生戦略の７つの分野に割り当てられていますし、新聞、テレビ等にも取組が紹介される頻度が多くなり理解や意義が得やすくなっています。Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０は、狩猟社会から農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を現実空間と仮想空間を高度な技術で融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会という注釈があるだけで、きらり創生戦略との関わりが分かり

ません。Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０とは、社会あるいは地域社会を意味し、日本政府が提唱しているテクノロジーを活用した社会の仕組みをつくることを指しています。ＡＩやＩｏＴなど最新技術を活用した新しい社会は、日野町の農業、医療、介護、福祉、公共交通、環境、教育、そして行政など町民生活にどのような変化をもたらし、便利になるのかをただしながら、きらり日野町創生戦略との関わり方を問い、誰一人取り残さない持続可能な日野町を創造し、その実現を目指すため、次の質問をいたします。

１つ、第２次創生戦略は、２０２４年度までのまちづくりの方向を示しています。創生戦略の基本となる４つの視点と７分野から成る基本目標並びに基本的方向を実行するために見えてきた課題をお聞きします。

２番目、ＡＩやＩｏＴを活用したスマート農業、スマートシティー、あるいはアグリテック、ヘルステック、医療、介護のことです、エドテック、教育のことです、などを創生戦略の７分野に当てはめ、課題解決に努めませんか。

３、その他どういった分野にテクノロジーを取り入れたいと思っていますか。

４番目、このような予算確保の考え方をお聞きします。

以上、４点の質問をしながら、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０について理解を深めたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　７番、安達議員さんの御質問にお答えいたします。

まず、第２次きらり日野町創生戦略の基本的方向を実現するために見えてきた課題は何かのお尋ねでございます。創生戦略の４つの視点は、若者・子どもが住む未来へつながる持続可能なまち、住民が生きがいをもって自ら考え実行する住民主導のまち、地域資源を活用した賑わいのあるまち、みんなの笑顔が光る安心安全なまち。７分野といたしましては、集落機能の維持・移住・定住、子育て・幼児教育、学校教育・社会教育、産業・雇用、まちづくり、保健・医療・福祉、防災・減災を掲げております。これらはどの分野も重要であり、それぞれの分野がリンクしている内容でございます。

例えば子育て世代の移住者を５年間で６０人ということを目標としておりますが、これが達成できないとなると、子育て・幼児教育の小学校入学者数１５人以上や、防災・減災のほうの自治会・自主防災組織における防災力の強化・充実という方向性のほうも難しくなってまいります。また、産業・雇用の面についても、雇用創出と人材確保どちらが先かということもございますけれども、町内総生産、雇用創出数という目標達成など、人口減少は様々な施策に影響してまいります。ということになりますと、いかに人口減少を緩やかにするのか、最大の課題はやはり町外

からの移住者の確保ということになってまいります。その中でも子育て世代の移住者を確保するため、そういった世代向けの婚活支援から高校進学時の奨学金まで様々な支援策を設けており、情報発信にも努めておるところでございます。そこで、第２次きらり日野町創生戦略では、町外転出者へのＵターン促進を方向性として定めているところでございます。町内出身者の若者層とつながりを持ち、継続的に移住定住や子育て等の施策について情報発信できるような仕組みづくりに努めております。コロナ禍で難しい状況ではございますが、今年度は同窓会の開催に助成を行うこととしております。これには、ふるさと住民票の登録を条件としているところでございます。また、町民の皆様に町外に出ていかれた子供さんやお孫さん等、子育て世代の方のふるさと住民票の登録を呼びかけ、移住定住の情報発信を行いたいと思います。今後もＵターン者、これには実家が日野町内にあるという方だけではなく、日野高校卒業生等も含むと考えておりますが、この関係の構築維持に努めてまいりたいと思います。

次に、ＡＩ、人工知能や、ＩｏＴ、モノのインターネットを活用し、７分野の課題解決に努めないかとのお尋ねでございます。ＡＩやＩｏＴの活用というと、創生戦略の第１分野、集落機能の維持、移住・定住では、自動車運転技術を使った乗り合い公共交通であるとか、ドローンを使った配送システム、第２分野、子育て・幼児教育では、ウエアラブルデバイスを用いた妊婦の遠隔健康管理、第３分野、学校教育・社会教育では、学習者一人一人に最適化されたレベル、内容、進度での学習を実現するアダプティブラーニング、第４分野、産業・雇用では、農林業分野での自動運転やドローンを活用し作業の自動化、省力化、第５の分野、まちづくりでは、行政手続のオンライン化、第６分野、保健・医療・福祉では、遠隔医療やＩｏＴセンサーによる高齢者等の遠隔見守り、複数の医療機関による電子カルテの共有、第７分野、防災・減災では、ＩｏＴセンサーやドローン等を活用した災害現場の迅速な把握などが頭に浮かんでまいります。

本町でも昨年度、教育現場において小・中学生、児童生徒一人一人タブレット端末をＬＴＥ環境で整備し、学校でも学校以外の場でもオンライン学習をする環境を整えたり、農林業においてはＪＡにおいてヘリによる水稲空中防除が行われているほか、ニホンジカの捕獲確認システムの実証実験や森林組合へのドローン空撮写真解析ソフトの導入支援などを行い、またこのたびの補正予算では観光、ＶＲ機能と連動した町特産品のインターネット販売での関連予算を計上させていただくなど、一部ではこういった技術の導入が始まっております。また、日野郡の医療連携の中では日野病院を中心とした鳥取大学医学部とも連携した電子カルテやレセプトシステム、遠隔医療システムを共有しながら、将来のＡＩ診断などを目指すスマートひのヘルスケア構想を掲げておられます。これは去る３月２９日、平井知事と日野郡３町長が行った「新型コロナを乗り越

え地域社会を切り拓く連携に関する共同宣言」の席上で、孝田日野病院長の提案で語られたものでございます。様々な分野で大変大きな可能性を感じるテクノロジーでございます。現段階で各分野での諸課題と、これら技術による解決への道筋がついてるわけではございませんが、今後の検討は必要だと感じております。

次に、その他どういった分野にテクノロジーを取り入れたいと思うかとのお尋ねでございます。技術の可能性という意味では、土日、夜間での行政への問合せに対応することですとか、定型的な業務、作業を自動的に処理するテクノロジーに期待したいと思います。

最後に、予算確保の考え方について。無限とも思える可能性を感じる技術分野でございます。大きな力にはなると思いますけど、その分、大きな費用が予想されます。効果とのバランスを考えながら、財政推計に取り組み、財源については過疎債であったり地方創生推進交付金など有利な財源を検討しつつ導入することとしたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　７番。それでは、詳細について再度お尋ねしながら、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０について意識を高めていきたいと思うんですが、まず、この第２次きらり日野町創生戦略の中に、まずＳｏｃｉｅｔｙという言葉が注釈で入ってるんですけど、どこにどう関わるかいうのは分からなかったけど、先ほど各分野等でこういうこともあるよっていうことをおっしゃりました。そこを踏まえてこれから議論をしたいと思うんですが、この日野町創生戦略の検証は、さっきのホームページでも検証の委員さんを募集されておりましたので、これから先の今まで期間の分を検証されて、これから足りない部分というのを詰められていくんだと思うんですが、検証に当たっては大事なことは、ここに数字も上げておられましたけど、数字で追っていくっていうのがこの戦略の一番大事なところです。当然それは検証委員会でされたらいいと思うんですが、私は今日、質問するのはね、当然数字的にもまだまだ達成してないと思われるので、その後半、このＳｏｃｉｅｔｙを大いに活用して追いついてほしいという意味で、あえてＳｏｃｉｅｔｙとはどういうもので、どういう活用したらいいかというものをテーマに掲げました。

それで戦略の中にあるのは、何といっても人口減少が一番の重要なところなんだという、まずそこをおっしゃった。それから、Ｕターンを促進をさせたいと、定住については特にＵターン者をターゲットにしていきたい。それをするには情報発信が大事なんだということをおっしゃったんでありますが、どういったような情報発信をされますでしょうか。ただ単に日野町に来てくださいではないと思うので、具体的にどういうような発信をしたいと思っておられますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　本問のほうで御答弁させていただきました。そして、議員からも重ねての御指摘でございます。このきらり日野町創生戦略、ＫＰＩっていう重要業績評価指標、こういった数字に沿って評価していくっていうのが本当に筋道だと思います。そういった中で人口減少をいかに緩やかにっていうことでございます。一般的には、じゃあ都会から、都会の方を来てもらうとかそういったことで、どういうんですか、縁もゆかりもない方っていう、もうすごく網を広げて情報発信をするやり方もございますけれども、どうもそれじゃあなかなか日野町に関心を持ってもらいにくいっていうのが実態としてあるのかなっていうことに気づきまして、やはりふるさと、公設塾ではないんですけれども、ふるさと教育、ふるさとをやっぱり体験した、日野町でふるさとを体験した、そういった方、具体的には日野町に住まわれた方とか日野町に縁がある方、そういった方にもう一度ちょっと振り返ってみてもらえませんか、そういうような情報、投げかけをしていく。具体的には、一つはふるさと住民登録をしていただいて、そこできっかけっていうか接点をさらに深めていく。そのふるさと住民登録をした方にどういった情報を出していくのか。今までの情報だけではなくて、やっぱりちょっとノスタルジックなこともあってもいい思いますし、日野町の現状、こういうことができるよとか、こういうことをやれますよとか、こういう状況になってますよっていう、今の環境であったり、どういうんですかね、町の課題であったり、そういったものをお伝えして関心を持っていただく、そういったことが必要なのかなと思ってます。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　おっしゃることはよく分かるけど、もっと具体の発信を、やっぱり答弁が欲しいところでありますね。私はやっぱりＵターン者の方っていうのは、やっぱり日野町をよく知っているということは、よさも悪さも分かる人なんですよ。それで、例えば農業はえらいけえ、えらいけえって言いながらね、後継ぎなんかするなとか言われた、そういう部分もあったり、あるいは空気のきれいなよさもあったり、それからこれから行政がする子育て支援のこともあったり、そういうようなものをやっぱり考えて、私はどこに住もうかなっていう結果を出すわけですよね。それで、このたびの補正予算に学校給食費が３月まで無料化という政策が出ました。コロナ交付金を利用しての大変いいことでありますから、こういうことをすると、やっぱり子育てに大変助かる、選択の一つになると思うんです。ということは、こういうのを恒久的にするということが、住民さんが自治体を選ぶ地域間競争の選択肢にあるわけであります。町長、ここで取りあえずこの給食費無料化は来年３月までの予算計上でありますが、ずっとこれは恒久的にする意味っていうのは私はあると思うんですが、町長、どう思われますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　Ｕターンっていうか、移住定住について全国１，８００の自治体のうち、恐らくほとんど全部がそういう取組をされてる。そういった中でやはり個性っていうんですか、きらりって光る、何か、へえ、日野町こういうことをやってるんだっていうようなものがあると、非常に情報としてのインテリジェンスが高いんじゃないかなと思います。そういった中で、今議員さん御提案のあったものは、これは、どういうんですか、検討に値するっていう言い方はちょっとおかしいんですけども、一つの考え方だろうと思います。そして、私はやはりこの町にある資源をまずはもう一度、すごくその方々が育ったり生活されてるときにあったものが今どうなってるか、特に私、高校であるとか病院、本当にコロナ禍の中で近くに非常に重要な病院がある。それもいろんなサービスが受けれる。そして、日野高校で、田舎で高等学校の教育が受けれる、そういった環境があるっていうような、やっぱりそういったこともっともっと強く情報発信していきたいなっていうふうに思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　地域間競争に勝つ仕組みをいろいろと考えてください。

次、２番目のＡＩやＩｏＴを活用した分野に行きたいんですが、先ほどどういったものが戦略の中に当てはまるかいうので、分野的に申されましたので、ちょっと私も初めて聞く横文字等もあるので、これはどういうことなのか、どういうところを目指しているのかを改めてお聞きしたいんですが、第２分野の子育て・幼児教育では、ウエアラブルデバイスっていう、舌を私初めて言うんで、これは妊婦さんとどう関わるのか、どういう政策であるのかを、するせんは別なんですよ、こういうことも考えられるとおっしゃったので、それを具体でお願いしたいと思います。

次に、学校教育のアダプティブラーニング、これはもう当然今、多分やっていらっしゃるだろうなと思うんです。タブレットが一足先に先行して入ってますからね。今の現状の報告でもいいんです。それから、第４分野での産業については、私は最もここが大事なんだと思うんです。農林業っていうのは日野町の基幹産業でありますから、これをこのテクノロジーでどう生かしていくかっていうのは、人口減少をどう補完していくかっていうのは大事なところなので、ここはもっと自動化やドローンを使ったものとか、俗に言うスマート農業たるはどういうものであるかっていうのは少し説明をしといてほしいなと思います。それから、健康・医療・福祉の分野では、遠隔医療とかＩｏＴセンサーで高齢者の見守りを行うとかいうのは、これも大事なところなので、どういったものなのかを具体で何か頭の中へあれば、ぜひともお教えいただきたい。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　議員さんからこういった質問趣旨書っていうか、そういうのを頂いたときに、ＳＤＧｓであったり、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０であったりっていうようなんで、その中にスマートシティーの概要がございました。へえって思って経産省がつくってるスマートシティーの、どういうんですか、シナリオみたいなのを見させていただきました。私的な感じとしましては、やっぱり、どういうんですか、いわゆるたくさんある、国がよく言うビッグデータっていうんですけれども、データを蓄積して解析して、それを活用する、そういった世界が中心になるんだと思います、今のいろんな例の中で。ウエアラブルデバイスっていうのは、ウエアラブルっていうのは身につける、身につけた装置で、遠隔でデータを取って、それを解析して、健康管理に役立てる。もっと詳しいのは担当課長のほうが詳しいかもしれませんけれども、そういった具合に取っていただければいいと思いますし、あと、アダプティブラーニングっていうのは、まさに学習者一人一人に最適化されたレベル、内容、進度での学習を実現するっていうような意味合いでございます。それと、遠隔医療でしたっけ。

**○議長（小谷　博徳君）**　今の部分の現状も教えてほしいいうのがあった。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　現状は教育だけでいいけど。

**○議長（小谷　博徳君）**　具体的に、はい、分かりました。

**○町長（埒田　淳一君）**　現状はそれぞれの担当……。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　どういう使い方がそれはできるっていう意味なんかを、どういう使い方をするのかっていうのを、妊婦さんにそれをつけてもらったらどうなるのかっていうようなところを聞かないと分からない。

**○町長（埒田　淳一君）**　じゃあ、より具体的ですので、それぞれの担当課長から答えさせます。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。妊婦さんへのウエアラブルデバイスを用いた遠隔健康管理ということで、町長のほう御回答をさせていただきました。ちょっと今これ私、遠隔っていうのがなかなか難しいかなとは思うんですけれども、今スマートウオッチっていうものがございます。これにつきましては、歩数でありますとか心拍数でありますとか、いろんな方が健康管理ツールとして使われている現状がございます。そういったものでありますとか、あとスマホにもいろんな機能がございまして、妊婦さんの方々に対してのアプリでありますとか、そういったものも活用しながら今後、健康管理ツールとして使用していけないかなという思いはございます。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　砂流教育課長。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　アダプティブラーニングについてですけども、学習者一人一人に最適化した学びということで、具体的にはそれぞれ小学校、中学校で使えるアプリのほうをｉＰａｄを通して使っております。例えば２桁掛ける２桁の掛け算の勉強をするといったときに、その学習内容に応じた問題がそのアプリ、最初出ます。解ければ難しい問題が次々出てきます。解けなければ、どこで間違ったかを判断して、１桁掛ける１桁に戻るとか、さらに足し算に戻るとか、そういったのが次々出てくるという形で、そういった教材のほうで判断をしながら、その子その子のつまずき、あるいは進度に合わせた学習ができるようなアプリがございますので、そういったものを使っていくということでございます。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　現実にしとるの。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　そういうことをしております。

**○議長（小谷　博徳君）**　あと、農林業。

角井産業振興課長。

**○産業振興課長（角井　　学君）**　スマート農業とはというようなお尋ねでございますが、本町の担い手の減少、高齢化によってその人材不足を補うという点で、このＩＣＴを活用した農業、林業を推進していくということはとても大切な視点でございまして、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０いうのを時代を迎える中にあって、やはりこういう取組を本町においても進めていく必要があるんだろうというふうに考えております。スマート農業ということですけど、具体にどういうふうなものが考えられるかなということでありますが、例えば農業において除草が必要になるといった場合については、ラジコン、リモコン式の自動草刈り機を導入するとか、あと水管理というのも大切になってきますから、こういう水管理も自動の水管理システムを導入する。あと、先ほど町長のほう答弁でございましたが、防除というものでドローンで空中から除草薬を散布してやる等々、そういうふうなシステムが今全国で実証実験が行われております。県のほうも、昨年度鳥取県内の３つの農場で、このスマート農業についての実証実験を行っております。その場合の実証実験の一つとして、例えばドローンによって水田に直接種もみをまくと、田植機で稲を植えるのではなくて、上から種もみをまいて直播栽培した場合については、やはり田植に比べて作業時間が３分の１でできたというようなことが成果として上がってきているようです。ただ、一方でドローンを使うということで、バッテリー交換とか、そういうのを頻繁に行わないといけないというようなことで、構造的な欠陥も出ているというようなことで、やはりなかなかいろいろ考えられるんですが、実際やはり技術面、あと安全面、コスト面でやはりなかなか課題も多くて、社会実装には至っていないというのが現状です。

本町におきましても、現在スマート農業といわれるものはＪＡさんが行われている空中防除ということでございまして、今後そういった他の状況、県の実証実験の状況等々、本町においても導入できるかどうか、そういうのを検証、そういうのもうちのほうで動向を注視しながら、また農家さんと一緒になって導入の必要性等々について考えていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　いいか。

荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　医療の関係についてお答えいたします。ただいま日野病院さんと、それから通信事業者さんをつないで、今勉強を行いかけたところでございます。これは日野病院、それから日南病院、それから江尾の診療所を結んで、例えば日野病院に専門医がいて、日南病院さん、専門医の方がいなくても日南病院に患者さんがいながら遠隔で医療をできるとか、そういうことができるのではないかというようなことで、今勉強を行っているところです。それから、患者さん、自宅にいながら在宅医療、日野病院とおうちを結んで、いながら、わざわざ病院に出かけなくても診療ができる、そういうこともできるのではないか。それから、介護施設と結んで、介護施設でも診療を行えるようなことができないかということで、現在、勉強を始めたところでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　７番。今、各課から今現実にやっているもの、あるいは潜在的に思っていること、できることをおっしゃっていただきました。これ大変重要なことで、これから政策するのに絶えず潜在的に管理者の方は持っていただいといて、どっかに補助金がぱっと出たら飛びつくというような、そういうやっぱり意識を持ってこれからも励んでいただきたいと思うんです。

そこで、先ほど日野病院の話が出ましたが、日野病院議会ではないので、本町から見てそれを推進することはやっぱり町民のためになるっていうのはよく分かるので、町長として日野病院にそれを今、孝田先生の提案を推進をしなければならないと思うんですが、当然、管理者でもあるからの立場よりは、町長としてどういった応援をやりますという決意みたいなものを、せっかくの機会なので御答弁をお願いします。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　スマートひのヘルスケア構想、共同宣言で採択していただいたし、またその共同宣言のときに３町長、平井知事も含めて、これ進めていかんといけんよねっていう話を

しっかりさせていただいておりますので、どういうんですか、進めますっていうことです。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　町長のやりますいう意思は伝わったけど、もう少し力強い応援とかね、ぜひとも応援というのが側面で必ず地元の長でありますから、くれぐれもはしごを外すようなことがないように進めてほしいと思うんです。

それで、今いろいろとＡＩやＩｏＴのことが出てきましたので、大ざっぱに何となくＳｏｃｉｅｔｙっていうのは、ああ、そういうもんかっていうのが何となく分かりかけたところであります。これ一般家庭でもそういうのはいっぱいあるんですよね、これからＩｏＴを取り入れた冷蔵庫、あるいはエアコン、あるいはテレビ録画とか、そういうものは皆さんスマホを持っておられたら、勤め先から帰るときにエアコンに向かって何度で部屋涼しくしといてって言えばもう自動的にそこが入るとかね、もうそれぞれの家庭でもこのＩｏＴのテクノロジーを使った生活ができておるわけです。そういった意味では、まだまだいっぱい行政ができるものもたくさんあると思うんです。例えば、先ほどの見守りとかいう部分もＩｏＴを中に入れた電球、それがついたら今日も元気でおはよう言われましたっていう独り暮らしのことが、安否が分かるとかね。あるいは今自治体がやってるのは水道メーターがスマートメーターになっている。それで蛇口を開いて顔を洗ったら、ああ、元気で今日も起床されたんだなというのが分かるとかね。これからは人手がなかったら、そういう見守りの方法もあると思うんですが、こういったものについては町長どう思われますか。まだまだいっぱいあると思うんですが、こういったものを取り入れて、やっぱり人口減少の補完にするとかいうのは大事な、今々すぐっていう話にはならないかもしれないけれども、絶えず潜在的に持っとって、先ほど言ったように、こういう補助金を使ってそれやろうとかいうのは絶えず持っとかないとできないことなので、その意識を伺いたい。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　今、私の手元にスマートシティーを通じて導入される主なサービスっていうようなの持ってるんですけれども、今議員さんがおっしゃられたようなんを、どういうんですか、いろんなところ、例えば会津若松であるとか、そうですね、札幌とか浜松とかいろんなところが実装っていうんか実験、モデル的に取り入れております。議員おっしゃいましたように、いろいろデータを利用できる、それが装置となるっていうんですか、一つのテクノロジーとなって住民、人間の幸福度の向上に寄与するというのは本当にそうだと思いますので、いろいろ研究っていうか勉強してまいりたいと思いますし、また国が、デジタル庁とかそういうのを立ち上げていろんなことをまた公であったり民間であったり、いろんな支援があると思いますので、しっ

かり捉えてまいりたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　それでは、今３番目も途中に入っております。そこで私は、本町も光ファイバーが導入されて大体４年ぐらいになりますね。そのときから思っておるのは、データ通信は一方的に早くはなってます、テレビでビデオを見るとか、いろんなもんでも早くなってますけども、私は町民との間に町民の皆さんとの双方向の通信が、やっぱり行政としてはきちんと考えておかないといけない部分だろうと思うんです。それで、いろんな自治体がこの双方向でどういうアプリを使っているのかって見ると、これ名前言っていいのかね、緑のマークのＬっちゅうのを大抵使っておられたり、キャッシュレスをどんどんやっておられるだとかね、そういうもう自治体もそこにもう入っておるんですね。私はどんなアプリを使ってでもいいんですが、双方向のやっぱ仕組みを考えるべきだと思うんですが、町長、いかがでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　デジタル化であったり、ＤＸ、デジタルトランスフォーメーションであったり、そういうようなことに向かっていくという中では、本当にどういうんですか、議員がおっしゃられた観点、大事だと思いますので、しっかり意識してまいりたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　そこでね、意識して持ってもらうことが大事だっていうのが、今日のお話のところで一番押さえておってほしいところなんですが、そんな中でぜひともやりたいな思ったときに、予算の確保という考え方っていうのが大事になってくるんですが、答弁では過疎債とか、そういうところになってくるわけでありますけれども、やっぱり過疎債というのは私たちの小さな町村では生命線ですが、やっぱりさっき言ったように補助金とか、別個な交付金というのも大事な要素、まずそこを狙って、残りを起債、借金で賄って事業するっていう、その考え方をきちんと持っておいてほしいんですが、先ほど町長が言われましたように、デジタル庁もできるようになりますが、その先行として地域デジタル社会推進費っていうのが昨年からついておるんです、２，０００億円ずつ。でも昨年もついてるけど、本町には１円も来てないんです。くしくも、この６月定例会に陳情が出ました。それは、本町の教職員組合から各総務省や総理大臣や衆議院議長や参議院議長宛てに意見書を提出してくださいという陳情であります。それで１０項目ぐらいあるんです、いろんな中に。それが新しい項目で、この先ほど言いました地域デジタル社会推進費をずっと確保してくださいっていう文言があるんです。それで昨日、我々総務委員会はそれを審査、調査を今しております。それがうまくまとまれば、最終日に意見書の提出を

議案として提案するかもしれませんが、まさしく、そういうもう時代である、だけど知らないっていうのはやっぱり一方で恐ろしいことなので、やっぱりこういう交付金があるっていうことを絶えず頭に置いて、先ほど言ったいろんな事業をこれで狙えないかっていう、そこが大事だと思うので、もう２，０００億円の１００万でもいいから取ってくるんだと、来年は、というやっぱ意気込みが私は欲しいんですが、町長、いかがでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　そうですね、地域にとって、また町にとってより有利な補助金、補助残起債みたいなんも使えるっていうような、そういう有利な制度のものについては、アンテナを高くしてしっかり情報を取ってまいりたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員。

**○議員（７番　安達　幸博君）**　そうすると、この戦略もぐっと加速的に成果が出ると思います。企画課長、先頭になって各課長を引っ張ってやってください。それで、今日の話は先ほど言いましたように、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０っていうのは何なのかっていうところがぼやんとでもいいですから分かってきた。私はこの第２次創生戦略がいろいろ分野によって書いてあるけども、それを実行するためのＳｏｃｉｅｔｙ５．０は、一つの戦術、手法であると思っています。だからこの手法を十分に活用して、ぜひとも地方戦略がいい結果が出ましたっていうふうになるようにしてほしいと。そういう意味でこれから予算確保の８月から１０月、県、国との予算確保があります。ぜひとも、そういう意識を持って取り組んでほしいという叱咤激励の意味で一般質問をさせていただきました。以上で終わります。

**○議長（小谷　博徳君）**　７番、安達幸博議員の一般質問が終わりました。

---

**○議長（小谷　博徳君）**　ここで休憩といたします。午後の再開は１時１５分に開会をしたいと思います。休憩。

**午前１１時４１分休憩**

---

**午後　１時１５分再開**

**○議長（小谷　博徳君）**　再開をいたします。

続いて、４番、金川守仁議員の一般質問を許します。

４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　それでは、通告に基づきまして一般質問をさせていただきます。

私のほうの一般質問は、防災・減災対策についてという内容で御質問さしていただきます。趣旨・背景につきましては、災害対策基本法の一部が改正されまして、住民の避難基準が分かりやすい表現で表記されました。また、日野町地域防災計画は、２０００年１０月の鳥取県西部地震災害の体験を生かし、日野町ＢＣＰ、業務継続計画を基に直近では昨年修正がなされております。常に町民が安心・安全を最優先とし、日頃から防災・減災について情報共有することが転ばぬ先のつえであり、自助・共助、そして公助だと思います。この災害基本法等の改正をチャンスとして捉えて、我が町の災害発生時の死傷者の発生をゼロと災害弱者サポートである地域支え愛マップ、全地域１００％完成を早期に達成することを願い、質問させていただきます。

質問内容は、１つとして、今回災害対策法の基準が変更されたことで、町では何がどのように変わったのか具体的に伺います。２つ目、自助・共助・公助の重要な位置づけである各集落の支え愛マップ製作の進度について現状を伺います。３つ目、国の電波法改正に基づき、防災無線が全国デジタル化に変わっていってるわけなんですが、従来の設備に比べてどのような点が改善され、我が町での早期設置など、改めて具体的に伺いたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　４番、金川議員さんの御質問にお答えいたします。

まず、今回の災害対策基本法の変更で、日野町では具体的に何がどのように変わるのかとのお尋ねでございます。今般改正された災害対策基本法は、今年５月２０日から施行されたもので、改正の内容は、住民に避難を促す警戒レベルを表す避難情報の変更、避難行動要支援者の個別避難計画に関する変更、そして市町村圏域を越えた広域避難に関する変更等でございますが、中でも避難情報の変更は、令和元年東日本台風等において避難勧告、避難指示の区別等、行政による避難情報が分かりにくいことから避難しなかった、または避難が遅れたことにより被災した例が多数発生したことを踏まえ、避難情報のうち警戒レベル４の避難勧告、避難指示を避難指示に一本化し、同じレベルで勧告とせず避難を指示することとなりました。このように市町村の大きな変更点としては、これまで避難勧告、避難指示と段階を踏んだ情報の発出をしていたものが、いきなり避難指示としてお知らせすることになるという点でございます。また、警戒レベル３の避難準備、高齢者等避難開始という避難情報は高齢者等避難に、警戒レベル５の避難発生情報も緊急安全確保という避難情報に変わりました。

次に、各集落の支え愛マップの進捗状況についてのお尋ねでございます。平成２８年度以降、新たに取り組まれた自治会は、平成２８年度が３自治会、平成２９年度が２自治会地区、令和元年度が３自治会、昨年、令和２年度が１自治会で、合計４９自治会中、２７自治会が作成済みで

ございます。結果２２自治会が未着手となっております。支え愛マップ促進の事業主体は日野町社会福祉協議会ではございますが、支え愛マップ作りをきっかけとした地域での見守り体制の構築や地域みんなが気軽に立ち寄って茶話会などができるサロンの立ち上げなど、様々な相乗効果が期待されますので、推進に力を入れたいと思っております。

次に、防災無線のデジタル化について、従来の設備に比べてどのような点が改善されたのか、設置場所などについてのお尋ねでございます。従来のアナログ無線設備は役場の親局、隣保館の遠隔制御装置、中継局、屋外スピーカー４局、戸別受信機から構成されておりましたが、今回のデジタル化により全ての設備を更新し、新たに再送信局３局を設置いたしました。加えて黒坂支所に遠隔制御装置を接続できるよう整備しており、何らかの事情で無線放送を役場庁舎で行うことができなくなった場合に備えております。これまでの設備では電波状況により雑音等が入って聞きづらいことがございましたが、デジタル化により雑音が除去され、音声が明瞭になりました。戸別受信機の設置場所については、これまでは住民各戸をはじめ、公共施設や日野病院、福祉施設等の準公共施設、一部集会所に無償で設置し、一般事業所については有償としておりましたが、今回の更新では誰がどこにいても安心・安全に避難できるよう防災面を考慮し、これまで有償としていた一般事業所へも無償設置、地区集会所及び指定避難所、指定緊急避難場所に対しても戸別受信機を設置することといたしました。操作方法や受信機の機能につきましては、高齢者が多く住む地域の実情を踏まえ、多機能化は行わず、従来の機能を継承した更新を行っております。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　そうしましたら、１つずつ具体なところを質問さしていただきます。警戒レベル１から５までありまして、一応それぞれの趣旨とかその目的、これが段階的に分かりやすくなったというふうになっておるんですが、実はそのレベル３のときの高齢者等避難という言葉をお聞きしまして、その高齢者避難、これ注意書きも細かい字でパンフレット等に書かれておるわけなんですけども、これは周知徹底する部分では町としての戸別というわけにはいかんと思うんですが、どのような形で後期高齢者に周知されるんでしょうか。まずそこを１つお聞きします。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　失礼します。レベル３についての高齢者等避難をどのように周知するかという御質問のようでございます。まず、この制度が変わりましたことにつきましては、５月以来チラシの全戸配布でありますとかチャンネルひの、町のホームページ、こういったとこで

御案内をさせていただいているところでございます。また、昨年４月に作りまして住民の皆様にお配りしておりますこの防災マップでございますけれども、この中の記載、この内容が変わってまいります。これを作り直してお配りすれば一番よろしいんですけれども、なかなかそうもいきませんので、修正部分をシールでもって直させていただきたいというふうに思っております。このシールにつきまして、また全戸お配りさせていただくことになりますけれども、それとあわせて今回の制度の改正について改めて御案内をさせていただこうというふうに思っております。

レベル３についてということでございました。レベル３、どう変わったかといいますと、これまでが避難準備・高齢者等避難開始という言葉で使っておりました。これが高齢者等避難というふうに変わります。恐らくこれまでの避難準備という言葉に惑わされるということがあったのかもしれません。それによりまして、高齢者等の避難が遅れたということが恐らくあったのだろうというふうに思います。これを改めるために、このレベルに達しましたら高齢者の皆さんはもう避難にかかってくださいと、そういう意味合いで高齢者等避難という言葉に変わったということで御案内をさしていただいているということでございます。よろしくお願いします。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　通常に防災無線等々で告知されまして、高齢者が判断する、周りの人たちが判断するというところにあって、ここで一番大事なのはどこへ避難するか云々ということになると思うんですけども、町の公的な、公的なといいますか、町が指定する避難所のスタートといいますか、開設はこの時点で放送される時点でもう開設されておるということでよろしいでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　避難所につきましては、自主避難という考え方もございます。町のほうから御案内するときには当然ながら避難所を開設するということになりますけれども、もう少し早い段階で自主避難の可能性があるという場合には山村開発センターでありますとか、黒坂支所、こういったところを自主避難できるようにということで開設することもございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ということは、その状況に応じて町営の、町営のといいますか、避難所というのは時間差が出てくるということでよろしいでしょうか。分かりました。そこでもう一つ、突っ込みますと、これは例えば地震、土砂災害、洪水大雨とかいろいろこういう災害の分野はあると思うんですが、どの災害のときにこれは対応するものでしょうか。全てでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　先ほどの警戒レベルということで申し上げますと、これは大雨洪水、こういったものに対応するものということになります。避難所の開設ということになりますと、これは全ての災害を対象といたしますので、地震であろうが、雨であろうが、あるいは雪であろうが、こういったものが全て対象になるということでございます。もちろん災害の種類が違いますので、この避難の警戒レベルというのは同じ扱いというわけにはいかないと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　そういう、それぞれの段階でそれぞれの個人の判断というところに任される部分が結構大きいと思うんですね、その自治会の場所とかそういうところでも変わると思うんです。その辺も踏まえて、何らかの形で情報発信ができるような形のものがあれば私はよろしいんじゃないかなと、そういうところを、もう少し突っ込んだところで防災無線とかネット、そういういろんな環境があると思いますけれども、そういうものを使ってどこどこでどうだというようなことも踏まえて、例えば根雨のほうには出れませんよ、黒坂のほうに避難してくださいとか、そういう細かい情報も多分レベル３では発信しなきゃいかんと思うんですが、いかがでしょう。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　それぞれの災害に応じて、交通が遮断されたりだとか、何がしか被害が出ているでありますとか、そういった情報はホームページを使って流させていただくとか、あるいはその緊急度なんかもあろうかと思いますけれども、防災無線を使ってのお知らせといったことも実際いたしております。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　そういう細かなところに、かなり今後は防災無線がすごく重要な役割を果たすんじゃなかろうかというふうに私は考えております。したがって、防災無線が今のデジタルに変わったことによって非常に全ての町民の皆さん、また町においでになってる外から働きに来られる方、その辺を踏まえて、先ほど町長の答弁にありましたように、事業所等々にも全て防災無線がつけられたいうことは非常に評価は高いというふうに私は感じております。

　この指定の、今の基本法の災害ビジョンというものがあるんですけども、この中で、実は連絡方法というのが各独り暮らしの方であるとか、通所されてる方だとか、いろいろな状況によってあるシステムでもって情報は確保されてると思うんですが、そういう細かいところは個人情報の関係でなかなか集落のほうに全般に出すというようなこともできないかと思うんですけども、そういうところは防災マップ作りのほうでどうこうとなると思うんですが、したがって２つ目の質

問の中で支え愛マップ、これが私は非常に大きな役割を果たしてくるというふうに思います。要するに、放送であるとか一方通行のワンウエーの情報発信ですと聞いてる、聞いてないとかいろいろあると思います。それで、２年前に私一般質問でさせていただいたときに、そういう事業所とか云々にも考えるというふうな形で御答弁いただいてましたので、今回クリアできたかな。ただそれを今度は一方通行のじゃなくて、どうやってそれを聞いた人が周りの人たちに伝達していくかというところの支え愛マップの重要性、ここについてお伺いします。１つ目は、その支え合いマップが今お聞きしました４９自治会の中の、私もちょっと確認しましたら、促進事業という形で進められているのが２７、ステップアップ事業で実施されているのが８、要するに１つ段階が上というふうに考えるわけなんですが、これは促進事業とステップアップ事業、前にちょっと話があったかと思うんですが、皆さんに分かるようにちょっと説明をしていただければと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。まず、支え愛マップとは何ぞやというところから説明をさせていただいてもよろしいでしょうか。支え愛マップですが、災害時の避難支援やその対応を円滑に行うための平時の見守りなどを目的に、支援を必要とする人や支援のできる人、避難所や避難経路などを盛り込んだ地図に落とし込んだものを支え愛マップといいます。この支え愛マップの特徴ですけれども、まず、地域住民さんが主体となっていただくっていうところに特徴がございます。各地区によって、いろんな課題があろうかと思います。年齢構成とかもそうであると考えます。その実情に応じて、しっかり地図に落とし込んでいただいて、各地域で住民の皆様が集まって知ってる情報を共有してもらって、いざというときにどのような助け合いをしていくかというものを検討し､実行に移すといった共助の取組を推進するものでございます。促進事業につきましては、地図作成の取っかかりのところで地図作成の支援をしたり、実際、初期段階でいろんな話合いをしながら地図を作っていただくことになります。ステップアップ事業につきましては、毎年更新が必要な地図でありますので、さらに集落の中で避難とか助け合いの仕組みをつくるのに、いろんな経費もかかってくると思いますので、そこら辺りの備品購入費とか、さらに初めに作った支え愛マップを進化させていくというような事業になっております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　私の調べたところでは、今年、令和３年３月２９日時点で、先ほど町長の答弁にもありましたように､全地域では促進事業は２７､未実施のところが２２、５５％

というふうな形でしたが、その次のステップアップのほうが、まだ８地域というふうになっております。これは非常に私も、私の地域もその中の一つなんですけども、これは残念だ、早くやらなきゃいかんなというふうに感じているところですが、どういう段階で次へ進めたらよいのかというのを、ここで長々と説明していただくのも大変ですので、もしこういうところが一番日野町の中でも支え愛マップとして先進した地域でやられてますよということがあれば、ちょっとこの場で紹介していただければより分かりやすいんじゃないかなというふうに思いますので。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。いろんな地区で様々な取組をされているんですが、支え愛マップを活用した地域支援という形で実際、精力的に活動されている集落もございます。防災面でいいますと、例えば３０世帯あるとして３人、３世帯１班というようなやり方をされて、その３世帯で声かけとかしながら実際の緊急時は避難をするような計画を立てられていたり、支え愛マップの話合いをする中で、実際地域の中の課題が思ったよりもたくさんあるというところで、買物サポートの仕組みを集落独自でつくられたり、見守りの体制づくりを集落独自でつくられたりというような、災害時以外にも活用できるような仕組みを集落の中で独自につくられているところもあります。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　大変いろいろ多岐にわたって、災害だけではない、そういう地域でのコミュニケーションづくりというところでこの支え愛マップというのは重要だということが今お聞きしたとおりだと思いますが、実はその共助・公助・自助も含めますけど、自助、この辺がどんどんと予算の関係もあるでしょうし、集落の関係もあるでしょうし、疲弊していく、要するに力がなくなってきてるというふうな自治会もあると思います。そこで行政としての公助の部分で、どの辺まで、どの辺までという言い方ちょっと悪いんですけど、とにかく自助でやっていく、共助でやっていくのが基本ではありますが、お手伝いというか、これから先よしやっていこうというふうな事業所さんがありましたら、多分、自治会長会議等々でＰＲされたと思うんですが、このようにしていただければというのがあれば教えてください。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　防災ということ、それから福祉課長のほうが申し上げましたように、防災以外での地域を守るための自助・互助・公助、共助というところ、なかなか切り分けて考えることができないところがございます。特に災害なんかの場合、行政が直接、住民の皆様にできることって実は災害発災当時、すぐにはあまりないんだろうというふうに思っております。やは

り、できるだけ自助・互助・共助のところで守っていただきたいというふうに思いますけれども、しかしながら先ほど来おっしゃっているように、地域の力が落ちていけばそれもままならんというところはきっと出てこようかと思います。そういったところがこの支え愛マップを作る過程で、成果品としてのマップという形ではなくて、それを作るためのお話合いの中で、もうここまでしか地域としてはできないと、いうところはきっと出てくるんだろうというふうに思います。それを超えるところについて、行政、それから行政以外ではなくって社会福祉協議会であったり、様々な見守りをする団体、そういったところも全部ひっくるめたところでその課題を切り分けていくと。個々具体の話として考えていく、それをしていく以外ないのかなというふうに思っております。一律の問題としての解決っていうのは、なかなか難しいかと思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　私もそのように思います。それぞれの地域によって、それぞれ事情が全て変わってるというか、変化がどんどん起きてきてます。今のこの支え愛マップの３月２９日現在の状況で、これは見直しはされ、地域のところですからね、地域でどうされるとかちゅうのあれでしょうけども、地図に落とし込んだものの見直しというのは何かされておられるんでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。見直しは最低でも年に１回、なされるべきだとは思っておりますが、全ての地区がそれがなされてるかといいましたら、そうでもないという現状がございますので、今、町のほうで予算をつけさせていただきまして、フォローアップ事業というのをやっております。年間１万円ということで、支え愛マップの更新に対する支援の予算でございます。こういったものを活用しながら、なるべく年１回程度は更新していただくように働きかけを行っているところでございます。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ありがとうございます。特に私どもも、もう７０の、あと何日かで７０になるんですけども、だんだん体力の衰えとか草刈りしてても、もうげぼげぼ言いながらやってるんですけども、そういう状態で自助・共助等々なりますとかなりの負担がかかってしまって、もうここでギブアップだみたいなところも出てきますので、そういうところではいろいろ手を差し伸べていただいて、今回の補正予算でも集会所の云々というのも出ておりますので、そういうのも広くＰＲしていただいて、通ればですけどね。進めていただきたい、支え愛マップ。これ大変、豪雪のときでも、洪水であろうが地震であろうが、全てのところにつながっていく、

隣の３軒両隣って昔はあるわけです、回覧板回せばどうのこうのとかね、返ってこないとかいろいろあるんですけど、そういうものをうまく地域で何とかやっていきたいというふうには思いますが、そこに届かない地域については、ぜひ公助のほうの手助けをお願いしたいのと把握をしていただきたいというのがお願いでございます。

次の、これは一番もう一度復唱さしてもらう支え愛マップというのがあるんですが、その次の３番目の質問、デジタル化で従来の防災無線とどのように変わったかと質問さしてもらったんですけども、この意図は実はせっかくこのチャンスがあって、１４か所ぐらい私、事業所を回ってみました。確かにちゃんとつけてあって、事業者の方はこれはいいと、５時、朝８時とか、ちゃんと１２時とか５時半、５時か、チャイムが鳴るし、規則正しい事業運営ができるような、そんな話も聞きましたので、今までなかったのがおかしいぐらいいうふうにも聞かれてます。アンケート等もまた来るんじゃなかろうかなとおっしゃってますので、そういうところでまた確認をしていただければと思います。非常に私も感動しております。

そこで、せっかくここまで、このものができて運用されていくわけですから、実はちょっと重箱の隅つついてて、非常に申し訳ないんですけども、鵜の池にキャンプ場、週末には大変な予約が入ってこられています。あそこの防災、何かあった場合、携帯は、あれは何だ、ドコモが入らない場所とそれから一部の携帯会社が入っているというふうなあって、アラートのほうもかなり聞こえにくいんじゃないかと思うんですが、そういう鵜の池に限りませんけど、観光地等々の集客されたところへのそういう防災無線は届かないでしょう、届いてないでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　このたびのデジタル化無線につきましては、基本的には従前あるサービスを変わらず提供させていただくということをまず基本に考えておりましたので、観光地への、特に鵜の池でありますとかそういったところへの無線ということは、この事業の中では考えておりませんでした。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ぜひ、小屋のところでいいと思いますので、外に聞こえるようにスピーカー、外部スピーカーも私要らんのではないかと思うんですが、デジタル機だけ置いとけば、すぐ隣にアンテナがポールアンテナが立ってますから、受信はできるんじゃないかと思いますので、検討していただきたいというふうに思いますが、いかがでしょう。

**○議長（小谷　博徳君）**　検討していただいたらいうことでいい……。

垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　御提案いただきましたので、検討させていただきたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ありがとうございます。ぜひそういう危険な場所を事前に、転ばぬ先のつえでつついていくということも大変重要であると思いますので、いろいろ検討していただきたいというふうに思います。

あと、デジタル化になったことでメリットとして私もちょっとまだ回答が来てないんですけども、確認をしているんですが、デジタルラジオというのがあって、この防災無線、富士通ゼネラルですかね、各それぞれに入っているメーカーさんがあるんですけど、そこのとこに問合せをしてるんですが、携帯で、携帯というか常にラジオのようでデジタルラジオで各全国のデジタル周波数を町によって全部割り振られてるんですね。そういうのがちゃんと合えば、田んぼの作業とか、この日野町内におればその電波を拾えれば、そこで防災が聞こえるというのをちょっと調べたんですけども、まだ回答は来てませんけども、そういうところは農作業されてるとか、山で作業されてるとか、そういう人たちにその防災無線がキャッチできる、それは有償になると思いますが、事業所で買ったらそれが入るのか入らないのか、防災ラジオというふうに記憶してるんですが、その辺についてはいかが。

**○議長（小谷　博徳君）**　具体的なの、ここに載ってないので答弁ができたらしてください、防災ラジオ。

渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　今の請負事業者のほうにも少しその話をしたことがございます。そちらからの話といたしましては、周波数ということもあるんでしょうけれども、何かそれぞれの自治体ごとの設定があるようでございまして、市販のラジオでそれはできないのではないかということで伺っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　できるだけこれに沿って質問をいただきたいと思います。

４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　分かりました。ちょっと質問外のことで、大変申し訳ございませんでした。今の話は、いろんな自治体で短波の防災ラジオとしてやってるとこ、鳥取市もかな、何かそういうのがあって、そういうところではやってるというふうには聞いてましたんで、ちょっと確認させていただきました。もう一度質問で、今の支え愛マップ、これの早々に今年、今年ですよね、今年どのくらいの自治体が進められていくのか。今８ですけども、これを目標はどのくらいに持たれてるのかをお聞かせください。

**○議長（小谷　博徳君）**　住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　お答えいたします。新規で、既に作ってみたいとこちらのほうに手を挙げられてるのが、現在のところ１地区です。目標としては、大体年間５地区を目標にこれから普及、広報のほうをしてまいりたいと思っております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ぜひ、我が自治会も頑張りますので、御指導いただければ助かると思います。要するに、支え愛マップが生活の中で隣にしょうゆを借りに行くとか、みそを借りに行くとか、そういう時代がなくなっちゃって隣が全然見えない状態が今の現状。都会よりはもっとひどい状態になってるかも分かりません。だから我が日野町は隣同士で手がつなげるし、顔が見れる、そういう自治体だけじゃないですけどね、そういうところを私はぜひ実績として全ての自治会が支え愛マップの何かの形で賛同して協力し合うというようなことを願って、私の一般質問は終わらせていただきます。答えはぜひ、やっていただきたいということですので、やるかやらないかという今の５地区というところじゃないですが、もう一声ぐらい欲しいなと思うんですが。

**○議長（小谷　博徳君）**　答弁要りますか。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　もしよければ、２件でも３件でもプラスして答弁していただければ。

**○議長（小谷　博徳君）**　一応目標５件いうことで、それ以上の努力は当然されると思いますけど、ほんなら住田健康福祉課長。

**○健康福祉課長（住田　秀樹君）**　努力はいたします。ごめんなさい、ここまで答弁していて事業主体が社協でございますので、社協と連携させていただいて、町のほうも一緒に取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　大変ありがとうございました。これ、ちょっと防災監の関係で、ハザードマップの関係で分かれば教えてほしいのが１件あります。洪水ハザードマップいうのが日野町で１件だけヒットして見えたんですけども、これは中小の川等々はあったでしょうか。私もちょっと探すのができなくて。日野町洪水ハザードマップという、根雨のものが１つだけ私ちょっと見つけちゃったんですけど、ほかにはないですよね。

**○議長（小谷　博徳君）**　何が聞きたいですかいね。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ほかの地域の、例えば小川尻川だとか、中小の川のハザードマッ

プというのがあるかないか。ここは日野川の根雨地区というふうになっておりますので。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　洪水ハザードマップということでございますけれども、先ほど御紹介いたしました防災マップ、この中に浸水区域ということで、全町の浸水区域、想定されるようなところを上げさせていただいておりますので、そちらを御覧いただければと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　４番、金川守仁議員。

**○議員（４番　金川　守仁君）**　ありがとうございました。以上で私のほうの質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

---

**○議長（小谷　博徳君）**　続けてもう１件、いきたいと思います。

次に、２番、梅林敏彦議員の一般質問を許します。

２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　私は、本日、衰弱しつつある集落機能の再生・維持について質問をいたします。昨年度、町が作成された第２次きらり日野町創生戦略には７つの分野について基本目標が掲げられています。そのうち、真っ先に上げられている分野が集落機能の維持・移住・定住です。私はさきの３月議会で、移住定住につながる関係人口について質問をしましたが、今回は町が現在進めておられる集落機能の維持に関わる事業について質問いたします。

質問の要旨です。１つ目、私は令和元年の６月議会において、小規模高齢化集落、これは戸数２０戸未満、高齢化率５０％以上の集落を指しますけれども、その再生について質問しました。その時点での本町の小規模高齢化集落の数は１５自治会だと町長は答えられましたが、現在の数値はどうなっていますでしょうか。また、この２年間の集落の全般的な状況の変化について見解を伺います。

２つ目、県は令和元年に小規模高齢化集落を再生するためのモデル地区を指定して支援する事業、名称を集落再生システム構築地区モデル事業といいますけれども、それを立ち上げ、本町では諏訪集落が指定されました。現在までの事業の進捗状況と成果を伺います。

３つ目、このモデル事業と並行して、県は日野郡３町とのタイアップ事業として集落再生の現場支援を行っています。県の職員と町の職員がタッグを組んで集落に出向いて話合いを重ね、その結果様々な動きが始まっていると聞いています。どのような方針の下に、どの集落でどんな動きが始まっているか伺います。この現場支援事業は集落の維持、再生にとって今後ますます大きな位置を占めていくと思われますが、事業が継続していく中で不可欠なのが集落支援員の存在で

す。集落支援員の現在の採用状況について伺います。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　２番、梅林議員さんからの御質問でございます。まず、日野町の小規模高齢化集落の数と、この２年間の集落の状況の変化についてのお尋ねでございます。まず、小規模高齢化集落の数でございますけれども、令和３年５月１日現在の小規模高齢化集落数は１４自治会と２年前から１自治会減少しております。これは世帯数の増加等により、小規模高齢化集落から脱却したものではなく、具体は布瀬谷でございますけれども、布瀬谷集落にお住まいの方がおられなくなったことによる減でございます。

次に、この２年間の集落の状況の変化でございますけれども、全体的に世帯数の減少、高齢化率の上昇により、年々地域の活力が低下しているように見受けられる集落がございます。その反面、このままではいけない、何とかしないとという人口減少に対する危機感を感じ、集落支援員などと協力し、住民同士が触れ合う場を増やされた集落もございます。奥渡地区、中菅地区、菅福地区など、多くの自治会では百歳体操などをきっかけに他集落との交流や先進地視察により地域の特産品の開発、販売など積極的に地域活動に参加されるようになりました。

次に、諏訪地区の集落再生システム構築モデル事業の進捗状況と成果はどうかとのお尋ねでございます。まず、令和元年度に諏訪地区の調査研究と課題の洗い出しを行ったところ、地域の集いの場、憩いの場がなく、地域のつながりの低下、活力の低下が課題として上がりました。そこで高齢者の健康づくり、支え合いの絆づくりのため、むらづくりカフェを開き、百歳体操等を実施されました。また、むらづくりカフェで皆さんが集まることにより、鳥獣被害を受けないトウガラシやハブ茶を特産品として共同栽培するアイデアが生まれました。昨年度は竹パウダーを活用した地域づくりを行う庄原市山内自治振興区に先進地視察研修が行われました。そこで学んだことを生かす取組として、菅福地区の日野川沿いに群生する竹林の伐採を行い、その竹を伐採して竹パウダーにし、堆肥として利用する地域資源活用型景観整備とコミュニティービジネスの展開可能性の検証が行われました。そしてその竹は、隣接する農地や水利、道路、住宅などへ被害を与えていたため、伐採により以前の晴れ晴れとした美しい里山の景観を取り戻すことにもつながっていると感じております。本年度は竹パウダーを使い、付加価値をつけたトウガラシの栽培が計画されております。

次に、鳥取県とのタイアップ事業として集落再生の現場支援をどんな方針の下、どの集落でどんな動きが始まっているのかとのお尋ねでございます。このタイアップ事業は、地域住民が将来に希望を持ち、住み慣れた地域で暮らしていくための仕組みづくりを行うことを目的とし、地域

のない物ねだりではなく、あるもの探しを行うことで諏訪自治会のトウガラシ、ハブ茶、竹パウダーのような地域資源を生かした取組を生み出していく事業でございます。まずは地域住民から地域の課題、地域住民が取り組みたいことなどを調査し、その中から無理なく取組が可能なことからスタートする地域づくりを進めております。井ノ原と畑の集落では両集落とも人口が少なく、単独で地域活動を行っていくことが困難という課題が見つかりました。住民に取り組みたいことなど聞き取ったところ、百歳体操を続けたいという希望が上がり、両集落を結びつけて合同で活動を行っていただく支援を行ったところでございます。課題が解決された結果、今では毎週楽しく体操を継続されており、また気持ちが前向きになったことから一緒にお出かけして食事をしたい、町内外の他の地域に出かけて取組を見学してみたいなどの意見が聞かれるようになりました。

続いて、久住集落は、今まで積極的な地域活動が行われていませんでしたが、令和元年度から県とタイアップして働きかけを行いました。昨年、集会所の改修工事を行ったことを契機に集会所を活用した地域活動実施について自治会長さんと一緒に事業計画を練り、今年６月からはまずは百歳体操を開始することが決まりました。６月６日に体験講座を行い、６月下旬からスタートする予定でございます。自治会長さんが全戸に参加を呼びかけ、１０名程度が参加される計画になっていると承知しております。

畑や井ノ原をはじめ、地域づくりを進めていく集落は町の地域活動支援交付金を有効に活用し、地域活動を進めており、昨年度３１自治会が交付金を利用されました。昨年度交付金を申請いただいた集落には引き続き将来に向けた話合いを行い、新たな取組として先進地視察を行って学んだことを地域で取り組み、地域の方々の楽しみ、生きがいづくりを支援していきたいと考えております。

以上のように、日野町内でも自分たちの集落を元気にしていこうという取組が各地域で始まっております。まだ取り組んでおられない地区におかれましても、地域の話合いのきっかけとなる交流会等の開催支援からスタートさせていただきますので、ぜひ御相談を、役場のほうに御相談いただきたいと思います。

最後に、集落支援員の現在の採用状況のお尋ねでございます。現在１名の集落支援員を採用しており、奥渡、真住、高尾、後谷、金持、板井原地区の支援として、地域づくりの推進、百歳体操による健康、生きがいづくりの推進などを行っていただいております。また、菅福地区の集落支援員につきましては、元気邑に所属する地域おこし協力隊１名に協力隊員として集落支援の活動を行ってもらうことになりました。当面は菅福公会堂横の集落支援事務所を活動の拠点とし、地域の方々の集いのカフェの開設や、隣の公会堂で百歳体操の実施などからスタートし、令和３

年度中に設置する菅福小さな拠点づくりに向けて、地域住民の後方支援をしていただくように考えております。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　最初に、この２年間の変化について答弁をいただきました。町長が言われるように、全般的に言えば、とても高齢化、人口減少が進んで、私自身地域活動する中においても日常的に活力が失われているということを感じておるところです。ただし、先ほど紹介されましたように、幾つかの集落では活力が徐々に生まれつつあるようですし、それから諏訪においては、まさにモデル地区に指定されて２年目、モデル地区といっていいような活動をされているように私は評価をします。ただし、こういう活性化した集落が生まれてきているということは、では誰がやったんだろうということをまず考えなければいけないと思います。先ほども説明しましたように、これは令和元年に当時の振興センター、日野振興センターの所長さんが発案された集落再生の現場支援の事業です。それは日野郡独自のもののようでして、なぜかといいますと、中部あるいは東部と比べて日野地区は、この集落再生あるいは維持についての取組が遅れているというところから発案されたものだと聞いております。このタイアップ事業というのはかなり大変です。まず、座談会、地域に出かけていって座談会をし、それから地域づくりの今後のビジョンづくりをし、さらにそれを活動に結びつけていく。行く行くは現在本当に点がたくさんできています。日野郡３町ですから、それこそ数十の集落に出かけていかれて活動されているんですが、日野町においてもたくさんの先ほど上げられた集落が動き始めております。名前は出てきませんでしたけれども、高尾とか後谷もまだこの支援事業で今始まろうとしているところだそうです。そういうふうに、だんだんだんだん点が大きくなっていって、行く行くはそれが面になっていって、小さな拠点へと結びつくということが想定して活動されてるんですが、町長はこの事業についてどのように評価されているか伺います。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　この事業っていいますのは、集落再生システム構築モデル事業のことですか。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　３町とのタイアップ事業で、現場支援をされているという。

**○町長（垰田　淳一君）**　先ほど議員さんおっしゃいましたように、日野振興センターのほうで発案していただいて、日野郡いろんな集落、日野郡日野町だけじゃなくて、いろんなところで御支援いただいている、一緒に県職員さんと役場職員が出て、集落に入り込んでいろんなことを集落の活性化のために支援していただいているということでございます。議員さんもおっしゃいまし

たように、集落の内発の力だけではなかなか話合いのきっかけづくりっていうようなこともままならない集落もひょっとしたらあろうかと思います。そういった中では、やはり外からの力というか、さらにはその力、経験に裏づけされた力であったり、いろんな事例を知っている、知識、そういったものが、どういうんですか、住民の皆様に伝わるっていうことでございますから、非常にぜひぜひそういうスキルとか知識を限定された集落だけじゃなくて、もっともっと広げていっていただきたいというか、いきたいなというふうに思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　実は、県から今精力的に働いて活動していただいている方、これは職名を中山間振興リーダーという名称です。これは各総合事務所に１人ずつ設置されておりまして、日野郡においては先ほどから話しておりますように、主にこの現場支援に注力されております。それに町の職員が１人ついて学びながら動いているという状況なわけです。実はこのリーダーさん、研究員でもあり、地域づくりの活動家でもあると言っていいと思うんですが、先ほども言いましたように、本当に積極的に、そして精力的に動いてらっしゃいます。その方の努力によって、ここまで来たというふうに言ってもいいかと思うんです。ところが、これは職員さんですから、いつまでもこの地におられるわけではありません。今せっかく出来上がりつつあるものを壊さないでそのまま維持していくためには、別の方策が必要だと思います。これをどういうふうに、おられなくなった場合に、これをどういうふうに持続されていかれますか。何かの構想がありますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　全く予期せぬ御質問ですね。やはり、どういうんですか、業務としてされている、業務として取り組まれるっていうのは、それは知識とか経験、そういったものに裏づけされたもの、個人的能力というのもございますけれども、要は業務でございますので、人が変われば全然全く違う異質になりますよっていうようなことでは、なかなか業務を進めていくっていうことができない思います。ぜひ、引き続き、仮に人がチェンジしても同様の質と量、そういったものを提供していただけるようにお願いしたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　これまでやってこられたこと、リーダーさん、そして町の職員さんがやってこられたこと、座談会を持って働きかけをしてまとめて、皆さんで課題を抽出しながら次の方向を決めて活動に結びつけていくと。これはすなわち本来集落支援員がやる仕事なんですね。つまり、このリーダーさんと町の職員さんがやっていることは集落を支援しておられるこ

となわけです、間違いありません、これは。集落支援員というのはそういうことをやる職種ですので。ということは、この事業を継続していくためには、必ず集落支援員が必要なんですよ。小さな集落、動けない集落に例えば活動支援金を出すからといっても、それは動けないところがたくさんあるわけですね。そうすると、やっぱり外部から入ってそれをサポートしなければいけない、まとめなければいけない。それをするのが集落支援員ですね。集落支援員というと、何か名前だけでいうと、草刈りでもやるのかな、草取りでもやるのかなと思われてる方がまだいらっしゃるかもしれませんけれども、そうではないんですね。コーディネーターですね。それをいわゆる来年以降も継続してやるには、やっぱりそういう人たちを育てていかなければいけないので、ここはぜひとも集落支援員というのが必要だというふうに私は考えているのですが、支援員さんを採用されるための告知をされていました。ホームページにも載っております。それから放送でも流れました。それがどうも採用に結びついていないようなんですが、その理由はどのように捉えておられますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　議員さんのお話の中に、集落支援員は絶対に必要だっていうような明快な言葉がございましたけれども、ちょっと私思い出した出来事がございます。ある私の友達であった、同級生であった町長が言いましたけれども、降雪の時期、除雪を誰かが全部代わりにやったら、その人がいなくなったり、そういうサービスがなくなったりしたら、もう自分で除雪ができなくなってしまう。やはり、全てを、どういうんですか、やめるとか丸投げするっていうようなことは自助っていうか、自分の力をそいでいくことになるよっていうような、そういうお話を私は聞かせていただいて、なるほどなと思ったんです。集落支援員さんに全てを委ねるんではなくって、私は集落支援員さんと地域の活力をそがないように、地域の内発的な力を引き出すための集落支援員さんである思いますので、集落支援員さんが集落の活性化に必要、全て必要かっていうと、私はちょっと疑問持ちました。質問のほうは、何でしたっけ。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　それでよろしいです。いや、町長の考えは分かりました。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　最初に私が説明したことはちょっと伝わっていなかったようなんですが、集落支援員というのは雪かきをするとか草刈りをするとかという職種ではありません、私が言っているのは。先ほども言葉に出して言いましたけれども、コーディネーターさんです。集落をまとめていく、もう自立できなくなったところに元気づけをする、種をまいていく、そして次の行動に結びつけていく、これが集落支援員です。ですから、今先ほど中山間振興リーダー

さんという肩書で今働いてもらっていますけど、その方がやっていることはまさにそれなんですね。まさにそれなんです。だから例えば先ほど紹介されましたけれども、畑集落と諏訪、諏訪じゃないや、井ノ原でしたっけね。集落の方が一緒に交流して楽しい時間を過ごす、次の希望も湧いてきている。そこにも、まだこれは企画中らしいんですが、高校生も入れて交流会を持とうみたいな話も進んでいるようです。そういうことをやっていくのが支援員さんなんですね。これがないと、ちょっとね、Ｃ型の地域活性化支援金ですかね、町が今年新しくＣ型のものをつくられました、５万円だそうです。それには、先進市の視察をしてくださいということが条件になっています。しかし、この先進市の視察を誰がどうやってコーディネートするんでしょうか。非常に弱ってしまったお年寄りが多い地域で、先進地をどうやって選択し、交渉し、スケジュールを立て引率してということが、とても投げ出しただけでこういうものがありますよって言うだけではできないはず。それをやってくださるのが集落支援員ですよ。そうやって一歩ずつ進んでいくんですよ。ですから、集落支援員、町長は御存じかどうか知りませんけれども、鳥取県内で専業、フルタイムで働かれる集落支援員さんは全ての町村にあるんですが、１つだけない町が日野町なんです。これは、とってもとっても残念なことです。もちろん今さら言うまでもなく、御存じですけれども、集落支援員は総務省の制度でありまして、特別交付税で賄われます。つまり町は懐を痛めることはありません。もう本当に積極的に活用すべき制度なんですよ。この集落支援員さんは、１人当たりの年間の上限額が３５０万円までは支給されるそうです。もう一つ言いますと、現在日野町には１人だけパートといいますか、兼業で働いていらっしゃる方があるんですけれども、この場合は４０万ということなんですが、私は集落支援員を募集したのにもかかわわらず、全く反応がなかったということについては、例えば外から呼んだっていいわけですよ。集落支援員のどこからどういうふうに今後も含めて採用方法というものを考えておられますか、今までと同じようなやり方ですか。聞きます。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　集落支援員さんの、いわゆるなかなか手が挙がらないんじゃないか、まさになかなか手が挙がりません。特にどういうんですか、集落支援員さん、私どものイメージとしたらやはり集落、その地域にある程度土地カンがある方が、どういうんですか、集落に入り込みやすいんじゃないかなというような色眼鏡をかけていた時期もございますし、またどういうんですか、いろんな行政との連絡調整であったり、いろんなことをいろんな機関との調整みたいなこと、さらには集落内での情報の提供っていうことになると、何か地元でお仕事をされていた方、そういった方がいいんじゃないかなっていう色眼鏡をかけていた時期もございます。ただ、いろ

いろ集落支援員さんを公募しますと、そういう色眼鏡だけでは集まらない、むしろそういう色眼鏡を取ったほうが手を挙げていただけるんではないかなっていうふうに気づいたところでございます。したがって、具体でおっしゃいました地域内の方でないといけないっていうようなことは、今考えておりません。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　挙手をしてください。

２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　やっぱり町内では２，０００人、赤ん坊も入れても３，０００人を切ってしまった。全国を対象にすれば１億を超えるわけですから、人口。もっともっと広く募集をかければ、採用に結びつく可能性は高くなるはずです。特に協力隊のＯＢさんであるとかね、ここのことはよく知らなくても、山間地で協力隊をやって活動していた方、あるいはかつてはここの出身で、今は町外に住んでいて定年になったんだけれども、ふるさとで何か仕事をしながら暮らしたい、ふるさとに還元したいと思っていらっしゃる方もいるかと思います。本当にもっともっと発信力を高めて、具体的に報酬は幾らであるとか、仕事の内容はどういうことであるとか、ということを含めた募集のＰＲの仕方をしていただきたいと思います。もう一度伺います、この件に関して。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　公募条件は、具体的なもので提示している思いますけれども、詳細ですので、担当課長のほうから説明させます。

**○議長（小谷　博徳君）**　荒木企画政策課長。

**○企画政策課長（荒木　憲男君）**　集落支援員さんの募集についてということですので、今後やはり町内に限らず幅広く、それから今おっしゃられた専任ということも検討しながらやっていきたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　町外から呼ぶということになれば、当然こちらに移住してこられるわけです。ここに住みながら集落支援の仕事をしていただくということになれば、やはりきちんとした報酬を払うべきであって、そうすることがよりＰＲの力が増えると思いますので、ぜひ全日で兼業ではなくて専業の集落支援員さんを募集していただきたいと思います。

それと、先ほどの今後の集落再生の維持についての方策について、もう一度繰り返して伺いたいと思うのですが、できれば町長のビジョンといいますか、集落を再生する、そして維持していくということの、何か出てきたときに小手先で何か施策を出すということではなくって、大きな

かっちりしたものを、全体像のようなものをぜひつくっていただいて、最終的にはどこに持っていくんだという方向性が見えるもの、町民が見てもよく分かるもの。ああ、日野町っていうのは、こんなふうになっていくんだなということが分かるようなものを、本当に今行われている事業というのは、現場支援の事業です。事業というのは、本当にこれをなくしてはいけない。これをどんどんどんどん大きくしていくことによって、町が一番の基盤をつくることになると思うんですね。ですから、町長がそこをもっと明確に展望して、明確に町民の皆さんに示していただきたい。当然そこには、先ほどから何回も言っています集落支援員さんの配属も絶対的に私は必要だと思っておりますが、その件について町長のお考えをお伺いします。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　この町をどういう方向にっていうことで、昨年、令和２年の４月に第２次のきらり日野町創生戦略、「まちが持続していくために」っていう副題の中で、「若者・子どもが住む未来へつながる持続可能なまち」であったり、「みんなの笑顔が光る安全安心なまち」、そういって「住んで良かったと思えるまちづくり」を目指しますという中に、７つの分野、そして今議員が御質問されている集落機能の維持・移住・定住、こういったことにしっかりと取り組んでいきますよっていうことで示させていただいているわけでございます。今、集落支援員、集落支援員さんっていうツールっていうんですか。本当に、まずは地域でいろいろ話し合っていただく、そういう機会づくり、さらにそれを深めていく、第２ロケット、それから先進地視察、第３ロケットみたいな形で、集落のビジョンっていうか集落の将来の姿、今を評価して、将来うちの集落はこういうふうにありたいねっていうことを話し合っていただく、そういったことに今いろいろ御支援をさせていただいております。そういった中で集落支援員さん、自分たちだけ、集落の中での知恵だけでは十分でない、もう少し役場の職員も加わるとか、そういったことの中でぜひ集落支援員の知恵も借りたいっていうことでしたら、ぜひ御相談いただいて、そういう方向に持っていけるようにしたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員。

**○議員（２番　梅林　敏彦君）**　話合いを進める、そしてそれをさらに深めていく、この方向性をまとめていくのがまさに集落支援員さんなんですね。地元の人たちだけがそれをやって、じゃあ後で集落支援員さんが入ってくるということではないんですね、だってできないんだもん。話合いをすること、それを深めていくこと自体ができないからこそ外部からの人が必要になって、それが集落支援員なんですね。だから、これは本当に大事な大事なことだと思います。ぜひ先ほど言ったこと、構想づくりをぜひぜひ進めていただいて、この動きが流れが途切れないようにして

いただきたいということを言って、私の質問を終わります。

**○議長（小谷　博徳君）**　２番、梅林敏彦議員の一般質問が終わりました。

---

**○議長（小谷　博徳君）**　ここで休憩をいたします。再開は２時４５分再開といたします。

**午後２時３４分休憩**

---

**午後２時４５分再開**

**○議長（小谷　博徳君）**　それでは、再開をいたします。

次に８番、佐々木求議員の一般質問を許します。

８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　それでは、私は通告に基づいて２点、大きくは２点、介護施設の問題、それから医療の問題について質問を行います。

私は、まず介護の問題でありますが、世界中がコロナ、コロナ、そして日本中がコロナ、コロナ、こういう状況になっておりますが、私はそういう中でも同僚議員が役場の職員のことをただされました。それも１つでしょうが、私は介護の施設の職員の予防接種が問題だと思っております。これは施設としては町内に３か所あるわけでありますが、そこに限らずですが、職員の予防接種はどこまでいっているか、そしてあわせて中学生、１３歳から予防接種が打てるようになってきたわけでありますが、その計画、中学生や教員など、どういう計画ができているのかというところ。

それから、おしどり荘などの今面会は、外部からコロナを持ち込まれることを警戒してだと思いますが、多くの方が５か月、６か月も身内に面会ができないという状態が続いております。これは仕方がない面がありますが、私はこういうときに外部に小さな窓を、ガラスをつけた面会所を造ってあげて、何よりも家族が薬になるので、面会ができるようにしてあげたらと思います。同時に併せて施設内での洗濯の問題がございます。これは、こうしたことを医療・福祉・介護の連携の中で、医師の病院の指導も受けながら、きちんと対応してあげれば面会も可能ではないかということで質問をいたします。

**○議長（小谷　博徳君）**　佐々木求議員、３番目の抗体検査について、ここに載っとるけど。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　目が見えんな。ごめん、すみません。（「１２歳」と呼ぶ者あり）

**○議長（小谷　博徳君）**　これは。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　それで、職員の皆さんに今一番大切なことは抗体検査。大体２回

目を接種してから２週間以上たつと抗体ができると言われております。この実施計画、不安は家族にうつしたらいけない、自分の子供にうつしたらいけない、大変な不安を職員は持っておられると思います。こうしたところに、抗原検査じゃなくて抗体検査を希望者にはしていくということが非常に大事じゃないかと思います。抗体ができておれば、安心して自分の子供にも家族にも会えるようになるからであります。

そして、医療の問題です。この間、医療が今、国でいろいろと決まりました。大きな点は３点ありますが、１つは７５歳以上の、所得制限がありますが、窓口での２割負担。それから、もう１点は、病院間の距離要件。不採算地域の交付金が２０キロですが今、県の距離が。それが以前３０キロで提案されかけましたが、今回はこの状況の中で１５キロに、逆に改善されました。そして、問題なのは、以前出していた全国で４２０の病院の整理統合含めた流れを求めていることです。今ベッド数がこれだけ足らない、不足しているという状況の中で、全く信じられないような動きがあります。

そこで、私は町長に個人的に、我々では国会議員に会うこともできないので、ぜひ機会があったら国会議員にも会って、要望やアクションを起こしてほしいということを要請したことがあります。どういう結果だったのかということをお尋ねいたします。（「１２歳を１３歳と間違って言われた」と呼ぶ者あり）

**○議員（８番　佐々木　求君）**　小学校６年から、１２歳。

**○議長（小谷　博徳君）**　はい、１２歳ね。じゃあ、１２歳の訂正でいいですね。

垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　８番、佐々木議員からの御質問にお答えします。一般通告書に従って御答弁いたします。

介護施設職員の予防接種はできているかとのお尋ねでございます。

町内の介護保健施設、３施設って議員さんおっしゃいましたけれども、介護老人保健施設おしどり荘、グループホームいちょうの木、特別養護老人ホームあいごなどがございます。現在、６５歳以上の方の集団接種と並行して、介護保健施設の入所者及び職員の接種を進めております。これらの施設職員につきましては、希望される方全ての１回目接種が終了し、現在、２回目の接種を進めているところでございます。接種終了予定は、おしどり荘などが７月末、いちょうの木が７月５日、あいごが６月２４日としております。

次に、中学生、教員、保育所職員などの予防接種の計画はどうかとの質問でございます。

まず、中学生の接種計画でございますけれども、これまで１６歳以上としてきた対象年齢につ

いて、１２歳以上に引き下げることが政府で決定されました。対象が広がった１２歳から１５歳までの学年は、小学校６年生から中学３年生、高校１年生までございます。小学６年生の場合は、誕生日を迎えて満１２歳になってからが対象となります。接種をするかどうかは、最終的には個人の判断となり、保護者の同意も当然必要となります。他の６４歳以下の方と同様に、接種を希望される方については、日野病院での集団接種に予約していただくこととしております。

続いて、教員、保育所職員についてでございます。保育所職員につきましては、高齢者接種の際に、キャンセル待ち対応の優先職員として接種を進めております。この体制を続けていきたいと思っております。教員につきましても同様に、キャンセル待ち登録をしていただく予定としております。

次に、抗体検査を進められないかとの質問でございます。

現在、大学や医療機関などでコロナワクチン接種後の抗体価の調査が実施されております。特に先日、千葉大医学部附属病院にて抗体価を調べたところ、ワクチン接種者１，７７４名のうち１，７７３名、ほぼ全員に抗体価の上昇が見られ、ワクチンが有効であることが確認されました。日野病院におきましても接種が終了した職員３０名の抗体検査を実施したところ、全員に抗体価の上昇が見られたと聞いております。このような研究結果を踏まえると、このワクチンを２回接種すると１００％に近い確率で抗体ができていると考えるのが妥当でございます。今のところ抗体検査に対しての公費負担は考えておりませんけれども、希望される方がおられましたら抗体検査ができるよう日野病院と協議してまいりたいと思っております。

次に、おしどり荘などは面会もできなくなっており、医療・福祉・介護の連携で医師の指導も受けて面会所を造れないかとの御質問でございます。

現在、日野町内の高齢者施設につきましては、新型コロナウイルスが感染拡大する中、全ての施設で対面での面会が制限されております。御家族や親族の方と対面での会話が長期間できず、入所者の方の心身の状況は大変心配しているところでございます。昨年度、オンライン面会の機器整備を行い、各施設で利用していただいております。現在、高齢者施設でのワクチン接種を進めておりますので、今後、面会制限の緩和についてもそれぞれの施設で検討していくことになると思っております。

続いて、コロナ感染拡大の中では施設内の洗濯が必要ではないかとの御質問でございます。

各高齢者施設の現在の状況でございますけれども、あいご、いちょうの木につきましては、介護報酬の中に算定されているということもあり、施設内で洗濯をされております。おしどり荘につきましては、家族への引渡し及び業者への委託にて洗濯をされております。洗濯が必要な衣類

などはウイルスが死滅する４８時間施設内で保管し、家族の方や委託業者に引渡しをされております。引渡しの際も感染予防を徹底されての引渡しとなりますので、感染リスクは高くないと認識しております。引き続き緊張感を持って感染予防対策を行っていただき、当面は現状維持での形態を継続していただきたいと思っております。

次に、高齢者の医療費負担についてでございます。７５歳以上の窓口２割負担決定をどう見ているのか、大まかな内容をどう見るかとの御質問でございます。

これまでの日本の社会を支えてこられた高齢者の皆様が将来にわたって安心して医療を受けられるよう、平成２０年度から後期高齢者医療制度が始まりました。この制度は、現役世代と高齢者の皆様が共に支え合う仕組みとなっております。運営に必要な費用は公費で約５割、現役世代が約４割を負担し、高齢者の皆様からも約１割を保険料として御負担いただくことになっております。政府は２０２０年度以降、後期高齢者の人口が増え、医療費が急増する見込みであるため、財源を賄う現役世代の保険料負担軽減を目的に、一定の収入がある７５歳以上の方の医療費窓口負担を２０２０年度後半に１割から２割に引き上げることとしました。負担能力のある方に可能な範囲で御負担をいただくことにより、若い世代の方の保険料負担の上昇を少しでも減らしていくことは重要であると考えます。ただし、窓口負担割合の見直しにより、必要な受診が抑制されるといった事態が生じないような取組の検討が必要と考えます。

続いて、今度の改正を受け、どう対応していくかとの質問でございます。

このたびの改正による現役世代の負担抑制効果はそう高くはございません。この改正は改革の入り口にすぎず、今後も議論が続くことは避けられない事実であると感じております。社会保障制度を持続可能にしていくことと、現役世代の負担軽減のバランスを考えた医療制度改革を実現することができるよう、町村会、さらには鳥取県などを通じ働きかけていきたいと思っております。

最後に、またこの間、どのようなアクションを起こしたかとの質問でございます。

特に特別なアクションは起こしておりません。今後はこのたびの改正のみならず、社会保障全体の議論をしていかなければならないと思っております。以上でございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　最初の介護の問題ですが、予防接種のほうは比較的順調に、計画どおり今のところは行われているという具合に私も見ております。この通告自体がもう１０日以上も前に出したもんですから、どうしてもちょっと時間差があって、全部が全部遅れとるという意味じゃありません。私は、大事なのは、テレビでも報道しておりましたけれども、中学校でク

ラスターが起きたというような報道もあります。これは非常に、一度ここの日野町のほうに入ったら警戒せないけん事案だと思うんです。先生方は米子から通われる人もおられるだろうし、いろいろなところに出かけざるを得ない人もおられる。だから、子供に絶対に感染がうつらないように、感染しないように対策を、計画を早めていただきたいというのが１つですが、町長、その辺は十分検討されておられますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　中学校であるとか保育所の保育士さんですね、そういった方、町外からも通っておられる方がございますけれども、御希望される方には接種をするっていうことで考えておりますし、また計画をしておりますね、です。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　計画をつくって進めていかれると思いますが、まだまだ今の時点では全面的にとはなってないようですので、これはもうきちんとやっていただきたい。

　それから、抗体検査の問題です。これは抗原検査、唾を使う検査は簡易なものでありますが、抗体検査を不安な人にはやっていくということは非常に大事だと思うんです。なぜなら、介護施設や病院で働くお母さん方、帰って食事を作ったりいろんなことをやられます。本当に不安だと思うんです。よく頑張ってくださっておられると思っておりますけれども、こういう人たちがやっぱり安心して、本当に安心して働くことができるようにするためには、私はやっぱり抗体検査というのはやらなきゃいけん、少なくとも希望者にはやってあげるというぐらいの頑張りを見せるときじゃないかと思いますが、町長はどげなやに。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　特に新型コロナウイルスの関係で、いろいろなどう対応していいのか、どう対処していいのかっていうときに、いわゆるエビデンスですね、そういう知見がないので、なかなか物事が進まなかった時期があったろうかと思います。そういった中で、いろいろ実験っていうか、実験という言い方よりも科学的知見、医学的知見を調えて接種、そういったものが進んできております。そういったことから考えますと、今、千葉大、それから日野病院でも抗体がどのぐらいできたかっていうこと、本当、１，７７４人のうち１，７７３人できた。それから、日野病院でも３０名抗体検査をしたら、みんな抗体の値が上昇したということですから、こういう医学的知見というか科学的知見に照らしたら、私的には抗体検査っていうのはもう必要ないんじゃないかなと思いますし、また違う面から、どうなんでしょうかって、これは担当課長といろいろ話をしたんですけど、抗体検査で抗体価が下がることはないかもしれませんけれども、上が

ってなかったら、じゃあその次の対処の仕方はどうなの、今、ワクチンを３回目打ちましょうっていうような、そういう科学的データもないわけですから、抗体価がどうこうで、何か対応方法があれば、またいい方法かもしれませんけれども、そういう２つぐらいの事実に照らしたら、抗体検査までは要らないんじゃないかなっていうふうに、積極的にする必要はどうも、私は必要性少ないかなっていうふうに、私としては感じております。

**○議長（小谷　博徳君）**　町長、最初の答弁と。

**○町長（垰田　淳一君）**　一緒ですよ。

**○議長（小谷　博徳君）**　一緒ですか。

**○町長（垰田　淳一君）**　はい。

**○議長（小谷　博徳君）**　抗体検査が、希望者には……。

**○町長（垰田　淳一君）**　希望者には。私的、今は……。

**○議長（小谷　博徳君）**　基本的には要らんじゃないか、データから持ち帰る……。

**○町長（垰田　淳一君）**　私の個人的にはです。

**○議長（小谷　博徳君）**　個人ですか。

**○町長（垰田　淳一君）**　ええ。希望される方がおられたら……。

**○議長（小谷　博徳君）**　いや、いいですよ。いいです。分かりました。

佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　これは本当に、私は医療従事者、それから介護の職員の皆さん、もう本当にびりびりしとると思うんです。こういうところで、やってほしいと言われる方があったらどんどんやっていかないといけない。それがまず安心につながるし、今言われたように、ほぼ１００％できるんだから大丈夫ですよと言ってもらうとね、やっぱり全然働きがいも違ってくると思うんです。特に家族においては、もう非常に大事なことだと思うんです。小さい子供を持っていたり、家ではお年寄りがおったりすると、もう大変な気の遣いようだと思うんです。

もう一度尋ねます。希望者については、やってくださいますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　町長、最初の答弁繰り返して。

**○町長（垰田　淳一君）**　最初の答弁のとおり。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　最初の答弁と違う。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　希望される方に対し抗体検査ができるよう、日野病院と協議してまいりたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　口では医療・介護・福祉の連携だと言います。誰もが言います。だけど、こういうところでその力を発揮して、ドクターなり病院の関係者なりに指導を仰ぐと、しっかりと仰ぐということをやることが極めて重要だと思うんです。それで、私がおしどり荘の面会の件を上げております。これについても、どんな薬よりか家族の顔を見るの一番の薬ですよ。半年も会ってない、そういう状況を知りながら放置しておったら、悪くなる一方ですよ。畳１枚分、１畳分あれば、そんなガラス越しの小屋ぐらいは造れます。僅かな金額です。それから、ガラス越しに面会できりゃええわけですから。その辺はどうですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　本問のほうでお答えした部分でございますので、本当に今はオンラインの機器整備したものでしていただいております。ワクチン接種を鋭意進めておりますので、今後、面会制限の緩和についてもそれぞれの施設で検討していくことになってくるのだと思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　認識甘いです。やっぱりそういうこともありますが、例えばスマホ、スマホ面会できるんですよ、今。それを使う相手は、施設の中の人はいいでしょう、職員にしてもらや。だけど、外の人は操作ができないと駄目じゃないですか。そういう点から言うと、やっぱりガラス越しでいいから顔が見えるようにしてあげたら。今回に限らんと思うんです。何が起きてもそういうことが可能になれば喜ばれる。だから、これはぜひ検討していただきたいと思うんですが、町長、もう一度、どうですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　お話は伺いましたので、そういう施設の方と、またお話もしてみたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　洗濯の問題はどうでしょうか。これも私はいずれこういう洗濯機を導入していくことなんかは必要な処置の一つだと思っておるんです。いずれまた別なことが起きたら、やっぱり家庭に持って帰って洗濯して持ってくるというやり方はいかがなものかと思うんですが、この辺については検討する余地はないですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　これも本問のほうでお答えしたんですけれども、洗濯物を御家族に引き

渡したり委託業者に引き渡す、そういった際にはちゃんとウイルスが死滅するとされている４８時間ちゃんと保管しといて、それからお渡しになるという、いわゆるウイルスの拡大を防ぐ、そういうマニュアルをちゃんと適用してされているわけですから、そういったこともちゃんとされておりますので、特にその、それと、２つの施設では介護報酬の中でもう施設内での洗濯をされてるということでございますので、そうですね、現状の維持の形態、そういったことでいいんじゃないかなと私は思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　施設に入っておられる方は体が弱いですからね、だけん、やっぱりできることは徹底して今やっておかないと、一度クラスターが発生したらもう大変なことになる。やっぱり逆にこういう時期を一つのいい機会として捉えて、そういう施設内で完結できるように、やっぱり設備を十分に検討したがいいと思いますし、この課題も施設の方と相談をしていただきたい。そのことだけを申し上げておきたいと思います。

次に、医療の問題です。町長、今度の医療の改正の中で、大体不採算地域の交付金どうなったか知っておられますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　議員さんがおっしゃいますのとぴったりいくかどうか分かりませんけれども、交付税措置が拡大したっていうことがたしか報道とかいろんな資料で示されたと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　あのね、やっぱりね、この日野町で住民の暮らし、健康を守る最高の責任者ですから、これは病院の経営では管理者そのもんですが、やっぱりそういう観点から政治の動向をしっかりと見ておいてほしい。大体日野病院あたりの９９床のところでどれだけかっちゅうとね、３０％増えとるんです、今回。これは経営的にも非常に大きなインパクトですよ。そういうときに、あなたは、あそこへ、私が言ったように、国会議員などに会って、機会があったらお願いしてくださいということも言っとったんですけど、あなたはあそこの鵜の池に行っとったじゃないですか、それは間違いですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　あなたじゃなしに、町長と言ってください。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　町長、頭にきだいたけん。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　鵜の池のキャンプ場に行きましたね、はい。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　町長、それは、やっぱり、言っちゃ悪いですが、ほかの幹部の職員でもいいと思うんです、鵜の池は。やっぱり、厚生省の山本副大臣が来とるんですよ。帰るときには日野病院の管理者に会えてないことを残念に言って帰られたそうですよ。それも江府まで来とるんですよ。大体、そういうのんが政治的に甘い。それで、そうじゃなくて、今、あなたが一番やらなきゃいけない仕事は、このコロナ禍の中であっても町民の健康や暮らしを守ることじゃないですか、どう思われますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　佐々木求議員、町長と言ってください。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　頭にきとる。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　議員さんおっしゃるとおりでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　冷静に。あのね、やっぱりね、町長、こういう場ですからね、住民の皆さんにやっぱり謝るべきですよ、どうぞ。いや、本当ですよ。わしじゃない。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　結果として、ちょっと思慮というか配慮が足りなかったっていうふうに、後日いろんなお話を聞く中で思いました。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　それから、７５歳以上の２割の負担は先ほど申し上げました。

もう一つある、４２０の、全国でね、病院の整理統合、統廃合については、これも題材になっとるんです。ですが、今回は私の聞いとる範疇では実行することにはなってない。しかし、これだけベッド数が足りない、もうコロナでベッドも足りなければ看護師さんも足りない。そういう状況の中で、やっぱりアクション起こしていかにゃいけませんよ。そして、我々みたいな一介の町会議員が国会議員になかなか面会することもできませんし、ふだん会うこともできません。だけど、町長あたりはそういう機会があるはずですから。今回、そういうのんで絶好の機会を逃されたと私は思っております。それが残念でかないませんけれども、大体、今これまでの３つの不採算地域の交付金の金額が伸びたこと、それから４２０の病院の整理統合はやっぱり方針を下げてない。それからもう一つは、不採算地域の交付金、金額が確定して３割増えたというとこら辺を踏まえて、町長としてはどのように受け止めをしておられるか、教えてください。

**○議長（小谷　博徳君）**　これ、質問項目に入っちょうだかいな。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　入っとるわい。いや、答弁せんって言うならいいけど。

**○議長（小谷　博徳君）**　いやいやいや、私が質問項目どこかいっていうのをちょっと聞いちょうだ。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　今度の改正を受けてどう対応していくのかっちゅうとこです。

**○議長（小谷　博徳君）**　これは、この２割の負担の改正だらあ。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　２割だけの負担じゃないです。だけん、わしさっき言いましたが。今回はその３つが柱であったっちゅうことを。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長、答弁ができたら、範囲でしていただければ。

垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　今、私の手元には令和２年１２月１５日閣議決定の全世代型社会保障改革の方針、今回の改正の根っこになる部分ですけども、その中の医療では、医療提供体制の改革、後期高齢者の自己負担割合の在り方。さらには大病院への患者集中を防ぎ、かかりつけ医機能の強化を図るための定額負担の拡大。その次は、最終章、終わりっていうことになっております。今、議員さんが３つって言われました。恐らくその３つは、もう一度繰り返しますけども、後期高齢者の窓口の負担、７５歳以上の一定の収入がある方の１割から２割へのシフト。そして、４２４病院のこと、それと交付税措置が手厚くなった、そういったことについてどうかっていうようなお話でございます。ですよね。

交付税措置っていうのは、これはすごくいいな、よかったなと思いますけれども、あと、負担のほうは本問のほうでも申しましたけども、いろんな影響がひょっとしたら出てくる。そこはしっかり注視して、今回１割から２割の線引きをした収入が本当に、どういうんですか、そこが恐らく調整しろみたいなふうに思いますので、それが適切っていうか妥当なのかっていうのは、これはまた受診とかそういうものがどういう傾向になるのかを含めて検証していかないといけない思いますし、４２４病院の件につきましては、今このコロナ禍の中で議論は凍結されてるっていうふうに私は承知しております。以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　大きい答弁の中の、この制度は現役世代と高齢者の皆様が共に支え合う仕組みとなっており云々とあるわけですが、政府はいつもこういうやり方やるんですよ、大体。小さく産んで大きく育てる、悪いことするときには大体そういうもんです。一つ、本当に私はけしからんなと思うのは、現役世代を盾にしとる。現役世代の負担の軽減を目的にしとるようなことを言っております。こんなものは私に言わせると、幾らでも財源はあります。無駄なことをいっぱいやっております。だから、国民のせいにしたり若い人たちの負担を軽減するんだと

いうのは、それこそいつものやり口です。私はこういう表現をされとることにちょっといら立ちが隠せんわけでありますが、負担能力のある方という言い方しております。確かに年金額でいうと２００万以上のようですが、しかも激変緩和措置を多少取るようです。激変緩和措置を取るようなら上げなきゃいいんですよ。それが一番大事なことなんです。もっと金の問題を、大体どこでもこういう言い訳的なことを書かれます。現役世代の負担を軽減するとか、あるいは平等な負担にするためだとか、いろんなことを言いますけど、結局、小さく産んで最終的にはこれを、枠を広げていくっちゅうのがやり方なんです、今までから見ても。私はそういう認識しておりますが、最後になりますが、町長はどげなやに思っておられますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　２０２０年に団塊の世代が後期高齢者の仲間入りして、２０２５年ぐらいにほとんどそこに入っちゃう。そういった中で、全世代型の社会保障改革っていうような、要はどうやっていくんだっていうようなことをしっかり考えていかないといけない。こういう書き方もしてございました。給付は高齢者中心、負担は現役世代中心という社会保障の構造を見直し、全世代型社会保障改革を実現することは未来を担う世代に対する責務であるっていうふうな、そういうこともございました。要はいろんな角度から見直していかないと、見直すっていうか検討していかないといけない。それが緒に就いたんかなというふうに評価しております。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員。

**○議員（８番　佐々木　求君）**　これで終わりますけども、私はお金がないことはないと思っとるです、政府に。これだけコロナの中で、皆さんに対して一定の保障ができております。これは全て十分だとは言いません。しかし、莫大な金がかかっておるわけでありまして、やろうと思えば幾らでもできるんです。現に、景気はいい、いいっちゅって騒ぎますけども、大企業は物すごい株なんですよ。じゃぶじゃぶ金を持っておる。これは今までの低金利政策のせいですが。いずれしても、そういうところに課税すれば何ぼでも金は出てくると私は思っております。以上をもって質問を終わります。

**○議長（小谷　博徳君）**　８番、佐々木求議員の一般質問が終わりました。

---

**○議長（小谷　博徳君）**　続いて、１番、中山法貴議員の一般質問を許します。

１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　それでは、私は公設塾まなびや縁側の運営についてと、町民の声の把握についての質問をしたいと思います。

まず、公設塾まなびや縁側の運営につきまして。日野郡における青少年に郷土のよさを伝え、将来のふるさとに貢献できる人材を育てるのを目的に、日野町、日南町、江府町の３町が連携して日野郡ふるさと教育推進協議会を設立しました。そして、その協議会にて高校生を対象とした公設塾まなびや縁側が日野町に開かれ、現在運営されています。地域の将来を担う人材育成のために、日野郡３町はしっかりとこの日野郡ふるさと教育推進協議会を運営していかなくてはなりません。そして、公設塾まなびや縁側を成功させなくてはなりません。

そこで質問です。１つ目、今年度、公設塾まなびや縁側の塾生が大幅に増えました。講師の負担が大きく増えています。支障のない運営はできていますでしょうか。また、今年度は昨年までいたコーディネーターを置いていません。コーディネーター不在で充実したふるさと教育はできますか。

２つ目の質問です。日野高校は寮生への学習指導を寮内ですると言って県内外から寮に入寮する生徒を集めました。しかし、今年度、日野高校ではこの寮での学習指導ができる状態になく、まなびや縁側に寮生の学習指導を依頼している状況だと聞きます。現在、この依頼を実質受けている状態で、このままでは日野高校が生徒へ保証した学習内容をまなびや縁側が指導することになります。まなびや縁側は責任を持ってこの学習指導をできますか。また、この件について、日野高校とはどのような話合いをされていますかという質問です。

次に、町民の声の把握についてです。

町の主役は町民です。町は町民の声を聞き、政治を行う必要があります。

質問です。２年前、私、一般質問で住民アンケートについてお聞きしたんですけど、住民アンケートは時期尚早と思う、研究、検討すると町長は述べられましたが、任期が４年目となった今、町民の意見や町政への評価を聞くために町民アンケートを取る考えはありますか。町長、よろしくお答えください。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　１番、中山議員さんからの御質問にお答えいたします。

まず、公設塾まなびや縁側について、塾生が増えたが支障のない運営ができているのか、コーディネーターが不在で充実したふるさと教育ができているのかとのお尋ねでございます。

今年度の入塾生の目標を当初１０名と設定しておりましたが、現時点で２９名に入塾いただいております。人数が多くなりましたが、運営に支障が出ないように、講師と事務局、各町担当者が頻繁にミーティングを行いながら進めているところでございます。コーディネーターが不在であることについてでございますが、公設塾の運営以外にもふるさと教育に関わる活動の企画、調

整活動などの業務を担っていただいておりましたので、このまま不在の期間が続くようであれば、十分な活動ができなくなるのではないかと危惧しております。

次に、まなびや縁側は責任を持って日野高生への学習指導ができるのか、日野高校とはどのような話合いをしているのかとのお尋ねについてでございます。

寮生の学習指導を行うことにつきましては、日野郡３町で了解の上、引き受けていただいております。責任を持った指導につきましては、寮生に限らず、縁側を利用してる全ての生徒に対して当てはまることで、全ての塾生に対して責任を持った指導を行っていかなければなりません。日野高校とは学習の進め方や内容、縁側利用に関すること、緊急時の連絡の取り方など、利用する生徒さんが安心して学べる場、安全に通える場となるように話合いがされてるところでございます。

最後に、次に、町民の意見や町政への評価を聞くために住民アンケートを取る考えはあるかとのお尋ねでございます。

以前、同様の御質問に対して、アンケートは一つの有力な方法ではあるけれども、やはり住民の皆様のお考えを諮るには、直接お会いする機会をもって会話するのが最良だというような回答をしたように思っております。今もその考え方には変わりはないのでございますが、やっぱり現状を考えますと、昨年、そして今年、新型コロナウイルス感染症により住民の皆様と直接会話をする機会は大きく減ってきております。そう考えると、アンケートという手法は取るべき手法かもしれないと考えております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　では、まなびや縁側の運営について追加の質問をいたします。

現在、支障が出ないように講師と事務局と各町の担当者でミーティングを行いながら進めているとのことですが、支障が出ないように進めていると、今。今のところはどうでしょうか。今のところは支障が出ていない。塾生から不満の声も出ていないということでよろしいでしょうか。塾生の声は拾えていますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　私、１週間前、２週間前だったかもしれませんけれども、縁側塾行きました。そうしますと、講師３人と、そして日野高の教頭さんが打合せをされている状況を見ました。そのときに、人数が多くなって大変だねっていう話とか、コーディネーターさんが欠けちゃって大変だよねっていう、そういうお話をしましたところ、大変ですけどもいろいろ工夫して頑張っていきますっていうお話を講師の方から聞いたところであります。塾生のことにつきまして

は、ちょっとそのときには私は全然聞いておりません。

教育課長のほうで何か補足あるかな。ちょっと補足、教育課長のほうからさせます。

**○議長（小谷　博徳君）**　砂流教育課長。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　今、町長のほうから答弁申し上げましたとおり、運営についての支障というのは現段階では聞いておりません。塾生のほうからの不満といいますか、そういったことについてなんですが、先ほど本年度の人数についてお示しいたしましたように、非常にたくさんの生徒さんが通ってきてくださっています。結果、１人に対する時間っていうのはどうしても減ります。そういった意味では、今までどおりもっと十分に関わってほしいというふうな声は届いております。ただ、そこは物理的に無理なところがございますので、短時間でも効率よくその生徒生徒に合った対応ができるように講師のほうが心がけているというふうに把握しております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　講師や担当者とのミーティングはもちろんなんですが、塾生が主役ですので、塾生からの声をよく聞いて支障が出ないようにやっていただきたいと思います。

次に、私は昨年から月二、三回はまなびや縁側に顔を出してまして、生徒や講師と話をしてるんですが、今年度はやはり塾生が増えてからは講師の方は負担が増えて、学習指導、いわゆる学校の勉強の指導だけで手いっぱいになっているように、ちょっと私は感じました。私はそう感じたんですが、実際のところの講師の声を事務局や町はきちんと報告書などで拾い上げてチェックをしていかなくてはならないんですが、その辺はうまくいっておりますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　砂流教育課長。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　先ほどお答えしていますとおり、講師と、それから事務局と各町の担当者ということで週に何回もミーティング、様子を見に行ったりも含めて情報共有をしております。そういった中で、確かに業務量が増えているということは事実ではありますが、それを負担に感じているというふうな声は講師のほうからは聞いておりません。このたび日野高生の寮生を受け入れることにつきましても、講師とまずは事前に協議をして納得していただいた上で今回寮生の引受けということにもなっておりますので、特に負担だというふうな声は聞いておりませんし、もし今後そういったようなことになるようであれば、また改善をしていくように、事務局、協議会のほうで協議をしていきたいというふうに思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　日野郡ふるさと教育推進協議会、３町でつくった協議会なんですけれども、目的は日野郡における青少年に郷土のよさを伝え、将来、ふるさとに貢献できる人材

を育てるというのが目的です。まなびや縁側もその目的のための塾でありまして、ふるさと教育をメインにやっていくと。高校生や保護者にもそのような説明をして入塾してもらったものだと思います。私はちょっと学習指導だけで手いっぱいというふうに見えたのですが、もし学習指導だけで手いっぱいであるならば、ふるさと教育というふうに説明を受けて入ったのにふるさと教育が不十分だとか、聞いていた内容と違うという声が塾生や保護者から出ることになりかねません。塾生は塾の費用を月５，０００円支払っていることもありまして、ここはきちんとやらなければいけないところです。塾生が大幅に増えた今年度も郷土学習や地域との交流などのふるさと教育は、今、コーディネーターも不在ということですが、今、十分にできていますでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　日野郡のふるさと教育、そういった関係を深めていくということも大きな目的にして、この縁側塾、できております。

２つほど意見を開陳したいと思いますけれども、１つは、この塾に入るまでにいろいろ、要はお店でいえば内覧会というんですか、こういうことをしますよ、こういうことができますよ、こういう勉強っていうかこういう時間が取れますよっていうのをかなり塾生の方と講師であったり、当時はコーディネーターさんもいたんですけれども、よくマッチングしてますので、そういう何か１つに偏ったことしかできないっていうようなミスマッチはないと思いますし、誤解も起こらないと思います。

もう一つ、ふるさと教育、いろんなものを見聞き体験していただく中で、やっぱり基礎学力っていうものもこれは大切ですので、どういうんですか、民間さんのようなもう進学一辺倒の塾のような形ではないわけですけれども、一定の学力を目指す部分、それはあるのは当然ではないかなと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　質問は、ふるさと教育は十分にできていますかという質問だったんですが、つまり、郷土学習や地域との交流、今のところ、４月、５月、６月と十分にできていますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　日野町がこの協議会の事務局を持ってないので、私がのぞいたときとか取材を受けたときですけれども、例えば日野郡は昔テニスのメッカで、その夢を復活させたいっていうようなことでいろいろふるさとのことを知るために講師の方と塾生の方がアンケートを取ったり、取材に来られたりされてました。そういうこともふるさと教育の大きな１つだと思いま

す。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　今の町長のお話ですと、実際に会ったときに話を聞いていると。ちょっと報告書などは町長のところまで行ってないのかなと思ったんですが、担当としてはふるさと教育は十分にできていると言える状態でしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　砂流教育課長。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　まず、まなびや縁側なんですが、その中で学習することが大きく３点示してあります。

１つ目が、郷土に誇りを持ち、将来ふるさとを担う人材を育てるための地域課題を使った学習をしますよということ。２点目として、自立学習の推進に向けた目標の立て方、学習の仕方、振り返りの指導をしますと。３つ目として、進路に合わせたキャリア教育を行いますというふうなことを示して生徒さんには来ていただいております。今、ふるさと教育が十分にできているかということについてなんですが、実際に地域に出かけていったり、地域の方と交流をしながら学んでいくっていうのは、生徒の生活時間との兼ね合いがありますので、平日っていうのにはなかなかできない。要は高校が、例えば午前中で試験のため終わって、その午後であったりとか、必要に応じては土日とか、そういったようなことでしか、昨年度までもできていませんので、この４月、５月で、じゃあ十分にできたかっていうふうなことはちょっと、できる範囲内でやっているというふうな認識をしております。

先ほど、業務内容といいますか、塾でこういったことをやりますよということをお伝えいたしましたけども、その２点目に掲げております自立学習の推進に向けた目標の立て方とか、そういった部分で、先ほど町長が申しました基礎学力の部分、それがないとふるさと教育、自分で課題を見つけて、その課題解決のために向かっていこうということはなかなかできませんので、そういった意味も含めて今はこういった基礎学力も十分につける時期であると。要は自分で自分の学び方を見つける、確立する時期であるというふうな捉えをしておりますので、今、十分できているか、できていないかっていう判断はちょっとできかねるかなというふうに思っております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　計画があり、それに基づいてやっているということだと思います。ちょっとさっきも言ったんですが、町長まで報告書が行ってないようなので、やはりそこは十分に連絡、報告などもきちんと組織として３町で責任を持ってやるものですので、やっていただきたいと思います。

次に、コーディネーターにつきまして、人数が、塾生が増えまして講師の負担が増えているんですが、昨年までいたコーディネーターが今年は不在だと。このコーディネーターを今年置いていないのはなぜでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　お答えする前に、何ですか、報告書っていうのはどこが作成した報告書なのかまた後で教えてください。でないと、どの報告書、何の報告書なのか全然分かりませんので。

それと、コーディネーターは一身上の都合で辞められました。

**○議長（小谷　博徳君）**　町長、辞められたのはいいですけど、不在で後入れるかどうかいう質問じゃないかと。不在なのだけど。

**○町長（垰田　淳一君）**　今、不在でございます。どうするのかっていうのはふるさと教育協議会のほうで、どういうんですか、決めていただくということになろうかと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　分かりました。報告書については、いや、報告書がない、どこからの報告書っていうのは、それは現場からの報告書ですよ。現場からの報告書ですよ。それが推進協議会なり町の担当に行く、現場から。それが行ってるんですよね、行ってますよね。課長、どうですか。

**○議長（小谷　博徳君）**　報告書の存在。

町長、垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　お間違いのないように、システム的にはこのふるさと縁側塾、これを管理っていうか統括してるのは日野郡ふるさと教育協議会でございまして、事務局はうちの町にはございません。したがって、縁側塾でいろんなことがあった、何か報告書を事務局のほうで作成されたものであれば、私のところに直接上がってくるというよりも、そちらのほうに上がってきて、具体的には恐らく３町町長でいろんな話題共有とか、協議会のほうでいろいろその報告書について精査される、そのようなシステムではないかなと思いますので、その辺はお間違いのないようにしていただきたいと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　ふるさと教育推進協議会を運営しているのは３町ですので、報告受けるのは私は当然かなとは思うんですが、今のところはそういうことはないと。ぜひ受けるようなシステムにしてもらいたいと思います。

コーディネーターの件なんですが、ふるさと教育を十分にやるにはやはり必要だと思います。町長も危惧していると述べられておりますので、早急につけていただきたいのですが、その辺、事務局と３町では進めているのでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　砂流教育課長。

**○教育課長（砂流　誠吾君）**　コーディネーターが不在の期間っていうのが一日でも短くなるようにしなければならないというふうに、うちとしては考えております。そういった意見も事務局のほうに言っております。今度、近々協議会が持たれますので、その場で議論をしていくというふうに事務局のほうからは聞いておりますので、そこで次の体制といいますか、再募集をするというふうな形になるのかどうかはちょっと分かりませんけども、方針が示されるというふうに認識しております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　では、そこで議論をしていただきたいと思います。

次の質問です。まなびや縁側が日野高校双葉寮の生徒の学習を受け持つということになっているんですが、現状、昨年までは日野高校は双葉寮の寮生を寮内で、日野高校で学習指導をしていたんですね。それが今年度はできなくなってまなびや縁側に頼むと、依頼されてきた。そして、３町はそれを了解して引き受けたというようなことなんですが、これ、なぜ日野高校は寮生の学習指導ができなくなったんでしょうか。そして、３町は了解したということなんですけど、了解するときに高校と３町でどのような話合いをされたのか、そこの詳細を教えてください。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　日野高生が大量に塾に押しかけたんじゃないかっていうような、そういうスクランブルじゃないかっていうような御意味があるのかなと思いますけど、現実はちょっとやっぱり違うんであります。昨年この縁側塾を立ち上げた際に、塾生をどれだけ確保できるのか、かなり試運転しました。なかなか反応がよくないっていうことで、当時のコーディネーターさんもすごい焦って、日野高校の双葉寮の寮生をぜひ来てもらいたいっていうことを日野高校所在の日野町長もっと動けっていうことで来られまして、事務局も。私、学校の当時の校長さん、それから今の校長さんが教頭さんだったんですけれども、こういうふるさと教育、基礎学力もできるし、ふるさと教育もできる、そういった塾にぜひ双葉寮生さんに入ってきてもらいたいなっていう話をさせていただきました。そうすると、いろいろ、もう既に保護者の方に塾じゃなくって寮の中で学校の先生がその専門教科について学習指導をするよっていうようなことになってるので、全部の間を、そういったものを全部やめて、じゃあ塾にお任せしますよっていうようなことは、

それはしづらいって言われて、自由時間っていうか自主学習の時間を塾のほうに行ってちょっと勉強したい、ふるさとのことを学びたいっていうことだったらいいよっていうような、そういうような去年経過がございます。今年は日野高校のほうで同じようなことを進めたいっていうことであったと思いますけれども、教科を教える先生方からそういうことはなかなか、恐らく時間的にかもしれません、時間的だと思いますけど、非常に難しいっていうことで、科目の５教科っていうんですか、５教科の中で１つの教科ぐらいの先生しかちょっとできなかった。それで、すごく困ってしまってということでこの縁側塾のほうに申し込まれたということでございます。それにつきましては、先ほど来から説明しておりますけれども、それをちゃんと迎え入れることができるかっていうことを講師の方々がいろいろ検討され、そして迎え入れることができるよということで、そういう状況だったら日野高校生を迎え入れるっていうことについて３つの町、どうですかっていうことで３町長でお話合いをさせていただいて、今の結果になっているところでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　日野町は日野高校への支援と高校生へのふるさと教育に対して、本年度の予算で日野高校双葉寮に９７８万８，０００円、日野高校魅力向上コーディネーター、これ１名増やす予定で２名、７９２万５，０００円、公設塾まなびや縁側の運営に７７１万２，０００円、公設塾の塾生への電車特急料金補助に５４万８，０００円、これ全部合計すると２，５９７万３，０００円をつけています。これだけ手厚い支援をしている中で、日野高校がやると言っていたのに、いや、できない、まなびや縁側、学習指導やってもらえませんかと依頼が来たときに、日野高校で責任を持ってやってくださいよと言える立場だと思うんですが、その辺はどうお考えになられたんでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　昨年のそういう学校との、いわゆる学校に依頼をしに行ったときの御返事と違った状況になってちょっと面食らったわけですけれども、ただ、教える先生っていうか、その確保ができないんだったら物理的に無理なんで、ああ、やむを得んなっていうふうに思いました。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　日野高校双葉寮での学習、生徒に説明していた学習は学力アップをして進学を目指すというもの。まなびや縁側の学習は、将来ふるさとに貢献できる人材を育てるという、学習支援もしますがメインは地域資源や課題を題材とした学習や地域との交流による

ふるさと教育としています。講師もそういったふるさと教育を主な任務として募集した講師だと思います。その講師の方々が昨年まで高校の先生がやられていた進学向けの学習指導を代わりに受け持つわけです。これ、本来、日野高校が生徒や保護者に責任を持って指導すると言ったこの指導を引き受けるわけですから、相当な覚悟が要ると思います。失敗しましたとは言えないと。これ、本当に引き受けて大丈夫でしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　議員さんの情報がちょっと古いのかな、陳腐化しているのかなと思うんですけれども、２年前の双葉寮の寮生に対しては、今、議員さんがおっしゃいましたように進学とかそういうようなコースに縛られる、進学コースでないと駄目だよっていうようなそういう世界がございましたけども、やっぱり日野高校の魅力化っていうような中で、入寮生、別に進学だけじゃなくても推薦もあったりいろんなことする、そうすると、基礎学力の部分をしっかり鍛える、それが１つの土台になるんじゃないかなっていうことで学校と交渉しましたので、先ほど議員さんおっしゃられた進学特化の、どういうんですか、学習指導っていうわけではなかったと思います。ですから、塾とのマッチングがうまくいってるんだと思います。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　はい。責任を持ってやって、やるという、やれるということで引き受けたということだと思います。よい塾になるように講師の声や生徒の声を、特に主役である高校生の声を聞きながら進めていっていただきたいと思います。

次の質問に移ります。住民アンケート、町民の声の把握についての質問です。

町の主役は町民であり、町は町民の声を聞き政治を行うという必要があるということで、町長は現在、今どのような方法で住民の意見を聞いていらっしゃいますか。

**○議長（小谷　博徳君）**　埒田町長。

**○町長（埒田　淳一君）**　直接お会いして、集落に出向いて御意見を聞くっていうことが本当にしづらい中の状況ですけれども、そういった状況でなくても、いろいろな検討委員会、町民の方から手を挙げてもらったり、こちらから選ばせていただいた委員の方、そういった方に参画していただいていろんな事業を仕組んだりするような形で意見をお伺いする場がすごく多いんではないかなと、多く感じております。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　住民の意見を聞く一つの方法として、今、日野町は提案箱、いわゆる目安箱ですね、あれを役場の１階に設置してあります。ここに意見はどれぐらい来ています

でしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　提案箱の活用でございますけれども、現実には近年使われることがなくなってございます。意見をいただくこともございません。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　設置してないということですか。私は設置してると、見たような気がするんですけど。

**○議長（小谷　博徳君）**　渡部総務課長。

**○総務課長（渡部　裕之君）**　提案箱につきましては、設置といいますか、置いてある部分もあるんですけれども、平成１８年だったですかね、置かしていただいて、しばらく運用しておりましたけれども、数年たつうちに御意見をいただくということもなくなっていたようでございます。その間、例えば自治会ということでいいますと、集落支援員を置いたり、あるいは自治会長さんからの通信用の様式を御意見をいただいたり何か御質問があったりというような御意見をやり取りできるようなことをやったり、あるいはホームページのほうで町のアドレスを公開をしたり、そういったことで別のチャンネルを設けたといったようなこともありまして、もうほとんどこの提案箱のほうの運用のほうはできていないということでございます。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　分かりました。せっかくあるのであれば、もっとＰＲして意見をもらうようにすればよいかなとは思います。

次に、住民アンケートにつきまして、住民アンケートは住民の考えやニーズを把握できるというメリットがあります。そして、結果を公表することで、課題を住民全体で共有することができるというメリット。さらには住民の政治参加のきっかけになるといったものもあります。そういうわけで、実施している自治体も多くあります。その住民アンケートですが、２年前に私が住民アンケートを取ったらどうですかと質問したときには、町長は検討、研究するとおっしゃったのですが、その後２年後、実施がなかったわけで、あまり前向きではない研究、検討をされたのかなと思います。ただ、しかし、しかし何と今回、町長はアンケートという手法は取るべき手法かもしれないと、とても前向きな答弁をいただきました。アンケートをどのような内容を取るかということもありますが、オーソドックスなものでいくと、町長が掲げた７つの重要施策についてそれぞれの評価、そして意見、要望などを聞くというものを軸につくられるのがよいのかなと思います。町民にどんどん意見を出してもらって町政に反映するということで意見をもらうんです

が、声の大きい人の意見だけでなく、町民全体に意見を言ってもらうことが理想だと思います。引っ込み思案の人はなかなか言えないと、アンケートだったら書けるけど、なかなか面と向かっては言えないという方などにもアンケートは有効だとは思います。これ、１０万人、２０万人の町だとできないんですが、３，０００人の町ですとできます。これ、私、以前からずっとやってほしいと思ってたんです。今回、前向きな答弁をもらいました。町長の任期終了までもう時間が限られているのですが、町民の意見を聞くのは今しかないです。早急にやっていただきたい。やると言っていただきたいんですが、町長、いかがでしょうか。

**○議長（小谷　博徳君）**　垰田町長。

**○町長（垰田　淳一君）**　こういうコロナ禍の状況の中で、住民さんに対するアンケートというのは一つの大きな取るべき手法かもしれないっていうことを本問のほうで申しました。先ほど議員さんの説明を聞いてると、地域課題の解決に向けた住民アンケート作成のポイントっていうのが平成３１年の２月、どっかの市の自治振興課から出てまして、私も今それを持ってるんですけれども、あっ、同じネタ本かなと思ったりしました。そういった中で、一つ、どんなアンケートがいいのか、悉皆っていうか、全数、よく世帯単位でのアンケートみたいなのもありますけれども、そういったやり方じゃなくって、家族に１個じゃなくって、男性、女性全部にっていうような、そういうこともありますし、アンケートは一つの統計と解析ですから、全数じゃなくって母集団が３，０００ぐらいだったら１００ぐらいのアンケートでも随分有効だと思います。いろんなことを考えていかないといけないなと思います。答弁は以上です。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　全住民に聞くのが私は理想だと思います。先ほども言ったように、声の大きい人だけの意見を聞くより、全体を聞くほうが理想だと考えます。住民アンケート、町長は今のところ、町民の声を聞く機会が大きく減ってるとおっしゃられておりますので、ここでアンケートをもし取られなければ、このまま聞かないままでいってしまうということになってしまうんですよ。そういうことはないと思いますので、取っていただけると思います。住民主導の町を目指すのが日野町です。町民は住民アンケートを待っています。やっていただけると思います。以上で終わります。

**○議長（小谷　博徳君）**　以上で終わりますいうのは、答弁はいいいうことですね。

**○議員（１番　中山　法貴君）**　いいです。以上で質問を終わります。

**○議長（小谷　博徳君）**　１番、中山法貴議員の一般質問が終わりました。

**○議長（小谷　博徳君）**　お諮りいたします。本日の会議はこれで散会といたしたいと思います。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○議長（小谷　博徳君）**　異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

会議の再開は、６月１８日午前１０時といたします。御協力ありがとうございました。

**午後４時１２分散会**

---